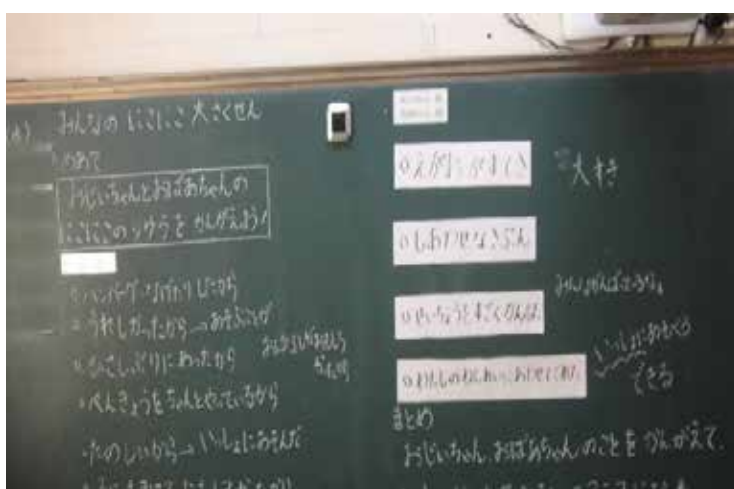


## 第 1 部 授業研究學習指導案



# 低学年分科会

## 第1・2学年



# 第1学年 生活科学学習指導案

令和2年11月18日(水)5校時  
調布市立飛田給小学校  
第1学年2組29名  
授業者 水野 秀弥

研究主題

「多様性を尊重し、互いを認め合える児童の育成」  
～オリンピック・パラリンピック教育を通じた障害者理解を軸として～

1 単元名「みんなの にこにこ 大きくせん」

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

家の人の笑顔について考える活動を通して、家庭生活を支えている人のことや家庭内で自分ができることなどについて考え、家庭での生活は様々な人が支え合っていることに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりすることができるようにする。

(2) 単元の評価規準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (主)
単元の評価規準	家の人の笑顔について考える活動を通して、家庭での生活は様々な人が支え合っていることに気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	家の人の笑顔について考える活動を通して、家庭生活を支えている人のことや、家庭内で自分ができることなどについて考えている。	家の人の笑顔について考える活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活しようとしていたりしている。
学習活動における評価規準	(1) 家の人の笑顔は、自分が関わっているものがあることや、笑顔が増えることで家庭生活をよりよくできることに気付いている。 (2) 家の人を笑顔にするためには、自分の生活リズムを整えたり、病気の予防に努めたりすることも重要であることに気付いている。	(1) 家の人がどんな時に笑顔になっているかについて、表現したり、伝え合ったりしている。 (2) 家の人の笑顔について、いろいろな観点から笑顔を増やす計画を立て、実行するとともに、その結果を表現したり伝え合ったりしている。 (3) 活動について振り返り、取り組んだことや、もっと取り組みたいことなどを表現したり、伝え合ったりしている。	(1) 家の人が笑顔でいるときについて、具体的に思い起こしたり、家の人に話を聞いたりして、積極的に笑顔を見付けようとしている。 (2) 家庭生活について、自らすすんで関心をもち、これからも積極的に家の人の笑顔を増やそうとしている。

### 3 児童の実態

学校再開後6カ月が経ち、子どもは学校生活に慣れ、できることが増えてきたことで少しずつ自信をつけている。日直や掃除、給食などの当番活動や係の仕事にも意欲をもって取り組んでいる。その中で自己中心的な考えから、他者へ関心が向き考えることができるようになってきた。一方家庭では、家族が自分のためにしていることが当たり前だと感じているような言動も見られ、必要以上に甘えて依存している児童が多い。そこで、本単元では、家族の笑顔を見付けることから始め、生活上必要な習慣や技能を身に付けていくことで、家族のためにすることが認められると嬉しいことや、家族が支え合っていることなどに気付かせたい。

また、本単元では、気付きの質を高めるために、伝え合い、振り返りを1単位時間の中に必ず設けてきた。子どもたちは、自分の考えを发表或し友達のことを聞いたりすることに意欲的である。しかし、友達の考えと自分の考えを関連付けて考えることはまだ難しい。そのため、教師が価値付けることで気付きを増やし、一人一人の思考を広げたり深めたりしていきたい。

### 4 研究主題に迫るための手だて

(1) 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という経験や過程を重ねていくための単元構成や1単位時間の工夫

#### ① オリパラ教育との関連

特別活動で学んだオリパラの学習から、誰でも参加できるスポーツということでボッチャを紹介した。祖父母と交流することになった際、そのことを思い出して交流に生かせるようにした。

#### ② 友達との交流

自分の考えをもち、さらに友達の考えを聞く時間を毎時間設けることで、自分の見方・考え方に目を向けることができるようにした。

#### ③ 振り返りの充実（ワークシートの活用）

「見通しをもつための振り返り」を1単位時間の学習に必ず行い、「本時の学習を振り返る、振り返り」をワークシートを活用して記入することで、自分についての力を確認できるようにした。

(2) 多様な人々との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有するための場面設定の工夫

児童にとっての家の人は、父母や兄弟姉妹という場合がほとんどである。そこで、祖父母にも目を向けさせ、家庭の役割や年代の違う人との接し方について考えられるようにした。

### 5 単元指導計画【全10時間（○内は時間数）】

次	□主な学習活動	○教員の支援	他教科との関連
ど ん な こ こ に こ え の 人 が は	□家の人がどんな時に笑顔かを出し合う。① ・テレビを見ているとき ・お手伝いをしたとき	○家庭には、家の人が笑顔になる様々な場面があることに気付かせ、自分自身はどうかということを考えられるようにする。	道徳 「かぞくとおはなし」家族愛、家庭生活の充実
	□自分の一日の生活を振り返り、家の人が笑顔でいる時を、自分との関わりの中から探す。①	○友達の考えを聞くことで、より多面的に家の人の笑顔について考えられるようにする。	

	<input type="checkbox"/> 家庭で調べた家の人の笑顔について、分かったことや思ったことを伝え合う。① <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手伝いをすると喜んでくれる。</li> <li>・料理を残さず食べると喜んでくれる。</li> <li>・元気に挨拶するとにこにこになる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 自分がしていること、家族がしていること、言われてしていることを分けて整理することで、自分ができることに目を向けさせる。	国語 「なつのおもいでをはなそう」 学級活動 「学級会」
二次 はじめよう にこにこ大きくせん	<input type="checkbox"/> 家族の人の笑顔を増やすための計画を立てる。① <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から学校の準備をしよう。</li> <li>・毎日がんばったことを話すようにしましょう。</li> <li>・テーブル拭きをしよう。</li> </ul> <input type="checkbox"/> 計画を家庭で実行する。	<input type="checkbox"/> 取り組む内容について理由を書き、目的意識をもたせる。	
	<input type="checkbox"/> 実行して気付いたことや分かったことを伝え合う。① <ul style="list-style-type: none"> <li>・言われる前に学校の準備をしたら、褒められた。</li> <li>・わたしも、○○さんがしたことをやってみる。</li> <li>・うまくいかなかったから、またやってみる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 自分と違う活動をした児童から話を聞くことで、「もっとしたい。」という気持ちを高めることができるようにする。	
	<input type="checkbox"/> 祖父母が笑顔になれる計画を立てる。① <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でどんなことをしているか話す。</li> <li>・好きなことやがんばっていること、苦手なことについて話し合う。</li> <li>・喜んでもらえるようなゲームやプレゼントをする。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 父母や兄弟姉妹だけでなく、祖父母に目を向けさせる。 <input type="checkbox"/> なぜ、その活動に取り組みたいか理由や目的意識をもたせる。 <input type="checkbox"/> 場に応じた挨拶や言葉遣いが必要なことに気付かせる。	学活 「オリパラについてしろろう」 (ボッチャ)
	<input type="checkbox"/> 祖父母を学校に招き、計画を実行する。①	<input type="checkbox"/> 祖父母を笑顔にする方法を広げるために、交流活動を複数設定する。 <input type="checkbox"/> 交流を密にするために、祖父母を含めて3～4人の少人数でグループを編成する。	
	<input type="checkbox"/> 実行して気付いたことや分かったことを伝え合う。① (本時)	<input type="checkbox"/> 自分と違う活動をした児童の意見を聞いたり、祖父母のメッセージ動画を見たりすることで、自己の行動のよさに気付くことができるようにする。	
三次 いっぱいにこにこが	<input type="checkbox"/> 今後もっとやってみたいことなどを伝え合う。①	<input type="checkbox"/> 活動中に書き溜めたカードから活動を振り返る。	
	<input type="checkbox"/> これまでの活動を振り返り、家族に手紙を書く等して気持ちを伝え、学習のまとめをする。①	<input type="checkbox"/> 単元終了後も児童が行動できるように促し、振り返りを行っていく。 <input type="checkbox"/> 手紙等で伝えることによって、これからも継続して家庭生活をよりよくできるようにする。	国語「しらせたいことをかこう」

6 本時について（8／10 時間）

（1）本時の目標

祖父母との交流を振り返り、気付いたことや分かったことを表現したり伝え合ったりすることで、自分の役割が増えたことに気付くことができる。 ☆

（2）本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 ・予想される児童の発言	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて（(ア)、(イ)） ◆評価規準
導入	<input type="checkbox"/> 学習課題を把握する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     おじいちゃん、おばあちゃんのにこにこのりゆうをかんがえよう！                 </div>	○学習を見通したり課題を把握しやすくしたりするために、学習過程を想起させる。 ☆（2）① 場面設定
展開	<input type="checkbox"/> 個人で祖父母の笑顔の理由を考える。 <input type="checkbox"/> グループに分かれ、個人で考えたことを伝え合う。 ・好きなものをお話ししたときに笑顔になっていた。 ・試合に勝ったときにとっても喜んでいたよ。  <input type="checkbox"/> グループで伝え合ったことを全体で共有する。 ・たくさんお話をするとにこにこになる。 ・勝ち負けにかんけいなく、笑っていたよ。  <input type="checkbox"/> 祖父母からのメッセージ動画を流し、祖父母の思いを知ることで、気付きを深める。 ・教えてくれたから、嬉しかった。 ・お話をたくさんしたからいい気持ちになった。 ・おじいちゃんおばあちゃんのために何かをすることが嬉しい。	○伝え合いを深めるために、理由まで想像できている児童には、理由も含めて発表させる。 ☆（1）イ 友達との交流 ○家族の温かさに気付かせるために、全体で共有し、深める。 ◆交流を通して気付いたことや分かったことを伝え合っている。（思・判・表②）  <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <b>【目指す児童の姿】</b>                      祖父母の思いを想像することで、他者理解や自己理解を深めている。                 </div>
まとめ	<input type="checkbox"/> 本時の振り返り、次時への見通しをもつ。 ・自分のおじいちゃんおばあちゃんにもたくさんお話をしようと思った。 ・おじいちゃんおばあちゃんができそうな遊びをしてみる。	○振り返りから考えを深めたり広げたりするために、めあてを再度確認してから行う。 ◆伝え合いを通して、互いのよさや違いに気付いている。（知・技①） ☆（1）ウ 振り返りの充実（ワークシート）の活用

7 研究主題に関わる目指す児童の姿（本単位において）

自己理解

- ・自分の考えをもち、自分のやりたいことが見つかる。
- ・できること、できないことが分かるようにする。何を伸ばし（続け）、何を改めていくかを知る。

他者理解

- ・人はそれぞれ（違う）考え方、思いをもっていることに気付いた上で、行動する。

せいかつか 家

## みんなの にこにこ だいさくせん⑤

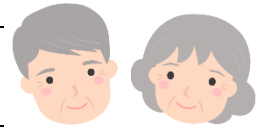
なまえ \_\_\_\_\_

### 1. めあて

おじいちゃん、おばあちゃんの にこにこのりゆうを  
かんがえよう。

### 2. おじいちゃん、おばあちゃんの にこにこのりゆうを かんがえて、 かこう。

じぶんのかんがえ



から。

ともだちのかんがえでよいなとおもったもの



3. まとめ


4. きょうのがくしゅうを ぶりかえろう。

① じぶんのかんがえを もつことができた。



できた



まあまあできた



あまりできなかった



できなかった

② ともだちの かんがえのよさに きづいた。



できた



まあまあできた



あまりできなかった



できなかった

③ もっと にこにこをふやそうと おもった。



おもった



まあまあおもった



あまりおもわなかった



おもわなかった

5. きょうのがくしゅうで わかったことを かこう。


## 研究協議会記録

### (1) 研究協議

- ① 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という実感をもてるような単元構成の工夫
  - ・ワークシーに記入することで、児童の変容が分かりやすくなっていた。
  - ・対話活動をたくさん取り入れてあることで、自己、他者、全体へと考えを広げることができた。
  - ・祖父母の気持ちを考えさせることが、難しいように感じた。意見の広がりあまり見られなかった。
  - ・祖父母との活動への思いとして、「楽しかった。」「うれしかった。」という発言がたくさん出ていたが、自分がどのように成長したか（考えが変わったか）という点が見えづらかった。
- ② 多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定の工夫
  - ・多様な人との関わりということで、祖父母との交流は大切でありよかったのではないかと。
  - ・児童は、高齢者ということを考えて、活動の計画を行うことができた。
  - ・祖父母の思いを動画に残すことで、児童の想像だけでなく、祖父母の気持ちを共有することができた。
  - ・祖父母からの動画は、児童の考えと合うようなものが準備できるとよかった。

### (2) 全体講評（ 山中 ともえ 本校校長 ）

- ・研究としては、チャレンジしている内容。多様性を尊重し互いを認め合えるようにしていくために今できることは何か、それについて実践しているもの。
- ・コロナ禍で、何ができるかを考えて実践している様子から、教師の質の向上が見える。
- ・児童の自己肯定感が低いという課題がみられるが、「自分はダメな人間だ。」と思うことは、人を受け入れない姿勢に結び付く。教師も肯定的に児童を受け止めることが必要である。
- ・6年間を見通して、低学年の生活科で学んだことを生かしていくことができるようにする。自己理解、他者理解が適切に進むことが、障害者理解につながっていく。
- ・多様性の尊重をし、互いに認め合っていくためには、低学年ほど国語における言語化、道徳における心情理解が大切になってくる。授業をする際に、その視点をもって行うことが重要である。
- ・自己肯定感については、数値化することは難しい。そのため、児童の声を拾っていき、記録したり価値付けたりするようにする。
- ・児童を肯定する声掛けをすることは大切だが、必要以上の称賛をするのではなく、児童が行ったこと（できたこと）を繰り返し声掛けするだけでも効果的である。
- ・今は、障害者・高齢者などのために生活に障害となる物理的な障壁をなくするというバリアフリーよりも、（障害者・高齢者含め）多くの人に使いやすいというユニバーサルデザインという考えの方が浸透してきているので、その点を踏まえて指導を行っていくとよい。

成果と課題

	成果	課題
単元構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の中における「家の人」の中で、祖父母に焦点を当て活動を計画したことは、今後、多様性の尊重についての学習につながっていくと考えられる。</li> <li>・ワークシートを冊子にして活用したことで、児童自身の考えたこと、できるようになったことの振り返りをすぐに行うことができた。また、教師が価値付ける際に活用することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の発達段階から、他者理解が難しいという点はあるが、道徳科等を通して心情について考えられるようにすることが重要である。また、自分の考えや気持ちを表現するために語彙力を付けていくことが必要である。</li> </ul>
場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では、例年祖父母との交流を行っているが、研究の視点をもって交流会の計画を立てた。そのため、自分たちが楽しいという気持ちが膨らんでも、祖父母に喜んでもらうという目的を意識することができ、他者意識につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスによって、祖父母の参加人数に違いが出てしまったため（新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる）、できるだけ多くの参加を呼び掛けられるとよい。</li> </ul>
日常の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよいところを見つけて発表し合うことは、自己理解につながった。また、それが自己肯定感の向上につながった児童もいる。</li> <li>・朝読書の読み聞かせ等で、障害についての本を読むことによって、いろいろな人がいて助け合っていることを知ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えや知識として得たことを、日常生活で実践できた時の価値付けを今後も続けていく必要がある。</li> </ul>

## 第2学年 生活科学学習指導案

令和元年10月17日5校時  
調布市立飛田給小学校  
第2学年1組27名  
授業者 高田 拓実

研究主題 「多様性を尊重し、互いに認め合える児童の育成」  
～オリンピック・パラリンピック教育を通じた障害者理解を軸として～

1 単元名 「あそびのたつ人 あつまれ」

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

**【自然や物を使った遊び】**

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで楽しむことができるようにする。

**【生活や出来事の伝え合い】**

自分たちの生活を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることによさや楽しさが分かるとともに、すすんで触れ合い交流することができるようにする。

(2) 単元の評価規準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (主)
単元の評価基準	(1) 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 (2) 約束やルールを守って遊ぶと楽しいことに気づき、守っている。 (3) 友達と関わって遊ぶ楽しさ、友達のよさや自分との違いに気付いている。	(1) 身近な自然や物の中から、遊びを考えたり、使ってみたい物を見付けたりしている。 (2) 比べたり、試したり、見立てたりして、遊びを工夫している。 (3) 遊びの約束やルールなどを考え、遊びを創り出している。 (4) 遊びを工夫したり、友達と関わって遊んだりしたことを振り返り、自分なりの方法で表している。	(1) 身近な自然や物を利用した遊びに関心をもって遊ぼうとしている。 (2) 遊びや遊びに使う物を、進んでつくろうとしている。 (3) みんなで楽しく遊ぶために、道具や用具の準備、片付け、整理整頓をしようとしている。 (4) 友達と関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。

<p>学習活動における 評価基準</p>	<p>(1) 相手や目的に応じた伝え方が分かっている。 (2) 自分の伝えたいことが伝わったり、相手が伝えたいことや考えていることが伝わったりする楽しさに気付いている。</p>	<p>(1) 多様な手段の中から、相手や目的に応じた伝え方を選び、活用しようとしている。 (2) 相手の気持ちを考え、表情やしぐさ、態度などで気持ちを表し、交流しようとしている。</p>	<p>(1) 相手や目的に応じて、伝えたいことを表現しようとしている。 (2) 楽しく伝え合い、繰り返し交流しようとしている。</p>
--------------------------	--	---	---

### 3 単元設定の理由

本学級は今年度より、東京都立調布特別支援学校の2年生1名（以下：Y児）との副籍交流を、学期に1回の年3回予定している。1学期にY児を教室に招き、自己紹介と手遊び、じゃんけん列車などをして遊び、交流した。児童は交流を通して自分と同じところ、自分とは違うところに気付くことができた。そこで、副籍交流でY児と継続的に関わることをきっかけに、Y児だけでなく、自分自身のよさや学級の友達や一人一人の違いに気付いたり、みんなで助け合って活動したりすることの楽しさを味わえるようにする。

また、生活科だけでなく学級活動や音楽科など、教科横断的に取り扱い、多面的に関わる機会を設けることで、より一層、互いのよさや違いに気付いたり、互いに助け合うことの大切さを味わったりできるだろうと考える。

### 4 児童の実態

#### (1) 校内研究アンケートより

「いろいろな人と関わることは好きですか。」「困っている人がいたら助けようと思いますか。」の質問に対し、90%以上が肯定的にとらえている。中でも、「とても思う」と答えた児童が70～80%となっている。一方で、「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問に対しては、肯定的にとらえた児童が70%にとどまり、「あまり思わない」「思わない」と答えた児童の割合が30%となった。また、「人のことを考えて行動していますか。」の質問に対しては、肯定的にとらえた児童が65%、否定的にとらえた児童が35%ということが分かった。

#### (2) 学級の様子より

本学級は男女分け隔てなく関わることができる児童が多く、全体的に仲のよい学級と言える。何事にも意欲的に取り組むことができる一方で、新しいことにチャレンジする場面では、周りの顔色を必要以上に伺ったり、指示を出してもらうまで動けなかったりする児童も多い。

学校生活の様々な場面で教え合い活動を取り入れてきたことで、友達に丁寧にアドバイスをしたり、友達のアドバイスを素直に聞き入れたりすることができるようになってきた。

本単元の、遊びや遊びに使う物を自分の力で創り出したり、互いに認め合ったりすることを通して、自己肯定感を高める。さらに、Y児や学級の友達との交流を通して、互いのよさや違いに付き、「みんなが楽しむにはどうしたらよいか」を考えられるように、他者意識を高めていけるようにしていく。

## 5 研究主題に迫るための手立て

(1) 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という経験や過程を重ねていくための単元構成や1単位時間の工夫

## ① カリキュラム・マネジメント

本単元は、生活科として行うだけでなく学級活動や音楽科などの教科の枠を越えた単元構成を行い、各教科や単元を相互に関連付けさせることで、児童がそれぞれの活動の中での交流を通して、多面的に自分の見方・考え方に目を向けられるようにする。

## ② 児童の発言や関わりを振り返る

1単位時間ごとに児童の発言や友達との関わりの様子から気づきや変化を見取り、児童とともに振り返ることを通して、ものの見方・考え方が「変わった・広がった・深まった」という実感を味わうことができるようにする。

## ③ 学習の流れ

「やってみる」→「振り返る」→「やってみる」という学習の流れにすることで、児童が自分の課題を明確にとらえられるようにする。

(2) 多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定の工夫

## ① 副籍交流を通して

副籍交流で東京都立調布特別支援学校に在籍する児童と交流することで、同じ学年の同じ地域に住んでいる子が特別支援学校に通っていることを知り、その子への興味関心だけでなく、特別支援学校がどのような場所かということについても興味をもち、自分たちと同じところや違うところがあるということに気付けるようにする。

## ② ボッチャ体験を通して

地域に住むパラリンピアンを講師に招いてボッチャを体験することを通して、講師の方のお話を伺ったり一緒にボッチャに取り組んだりすることで、障害について学ぶ機会とする。また、「誰もが楽しめるスポーツ」という視点から、遊びづくりについても、誰もが楽しめる遊びや遊びに使う物がどのようなものであればよいかを考えていけるようにする。

## ③ 話し合い活動の充実

グループや全体での話し合いの場面を多く設定することで、児童が自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしやすい雰囲気を作るようにする。その中で、自分と同じ考えや違った考えがあることに気付くことができるようにする。

6 単元指導計画【全21時間（○内は時間数）】

次	教科	□主な学習活動	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて ((ア), (イ))	評価規準 (重点項目)
一次 同じところや違うところを知ろう	道徳 ①	□自分の“弱点”はどんなところか考える。 □友達と話し合っ、互いの考えを比べる。	○得意なことや苦手なことは人それぞれだということに気付けるようにする。 ☆カリキュラム・マネジメント(ア)	
	学級活動(副籍交流) ②	□Y君のを知り、自分と同じところや違うところを考える。 □みんなで一緒に遊び、Y君の様子について、同じところや違うところを考える。	○市内に特別支援学校があることや、学区にY君が住んでいることなどを 知り、Y君に親しみをもてるようにする。 ☆副籍交流(イ)	
	学級活動 ③	□パラリンピアンのお話を聞いて、障害について考える。 □ボッチャ体験を通して関わり合いながらスポーツをすることの楽しさを知る。	○障害に立ち向かい世界の舞台で活躍することのすごさに気付かせる。 ○誰もが一緒になって楽しむことができることに気付かせる。 ☆ボッチャ体験(イ)	
	音楽(副籍交流) ④	□Y君と関わり合いながら、リズムに合わせて体を動かしたり歌ったりすることを通して、Y君の様子について考える。	○1回目の交流を振り返り、Y君の様子について想起できるようにする。 ○音楽の授業の場面での関わり方について考えられるよう、言葉かけをする。 ☆副籍交流(イ)	
	道徳 ⑤	『およげないりすさん』 □できないことがあっても、周りの人の支えがあれば、一緒に楽しむことができるということについて考える。	○「なかよくする」ということがどういうことかを考えたうえで、まとめの説話として、『しょうがい』について触れる。 ○車いすバスケットボールパラリンピアン根木選手の『しょうがい観』についてのお話をする。	

	生活 ⑥ ⑩	<input type="checkbox"/> 身近な自然や物を使った遊びにはどのようなものがあるか、考える。 <input type="checkbox"/> 遊びや遊びに使う物を作る計画を立てる。 <input type="checkbox"/> おもちゃ作りをして、みんなで遊ぶ。	<input type="checkbox"/> 教科書や過去の遊びを例示することで、作ってみたい物について考えられるようにする。  ☆話し合い活動の充実 (イ)	思(1)  主(2)  主(1) 知(2)
	生活 ⑫ ⑭	<input type="checkbox"/> さらに自分で作ってみたいものを考える。 <input type="checkbox"/> ゲーム性を考えたおもちゃを作れるように計画する。 <input type="checkbox"/> 遊びや遊びに使う物をつくる計画を立てる。	<input type="checkbox"/> 教科書や過去の遊びを例示することで、作ってみたい物について話し合えるようにする。  ☆話し合い活動の充実 (イ)	知(1)  主(3)  知(3)
二次 みんなが楽しめる遊びを考えよう	学活 ⑮	<input type="checkbox"/> 特別支援学校での生活の様子について知り、自分たちと同じところや違うところを考え、話し合う。	<input type="checkbox"/> 特別支援学校のカリキュラムや教室の様子がわかる資料を掲示し、興味・関心を引き出せるようにする。  ☆副籍交流 (イ)	
	生活 ⑯ (本時)	<input type="checkbox"/> グループごとに考えた遊びについて、誰もが楽しめるための工夫はどんなところにあるかを考え、話し合う。 <input type="checkbox"/> 発表し合い、全体で話し合う。	<input type="checkbox"/> 工夫の仕方を例示したり、グループごとに伝え合ったりすることで、自分たちの考えている遊びのルールや仕組みの工夫を考えられるようにする。  ☆話し合い活動の充実 (イ)	思(6) 主(5)  思(3)
	生活 ⑰ ⑱	<input type="checkbox"/> グループで相談しながら、遊びや遊びに使う物を作る。 <input type="checkbox"/> 繰り返し比べたり、試したり、見立てたりして、遊びを工夫する。	<input type="checkbox"/> 安全に配慮しながらつくるように注意させる。 <input type="checkbox"/> グループ内で繰り返し試したり、作り直したりできるようにさせる。  ☆学習の流れ (ア)	思(2) 知(4)
	生活(副籍交流) ⑳	<input type="checkbox"/> みんなで遊んで楽しむ。 <input type="checkbox"/> 誰もが楽しめるように遊び方を工夫する。	<input type="checkbox"/> 遊び方やルールの伝え方を考え、誰もが理解できるように工夫させる。 <input type="checkbox"/> みんなが楽しめるように相手の気持ちを考えられるよう、声をかける。  ☆学習の流れ (ア) ☆副籍交流・話し合い活動の充実 (イ)	思(3) 主(4) 主(6) 思(7)
	生活 ㉑	<input type="checkbox"/> 学習の振り返りをする。 <input type="checkbox"/> 次に遊ぶときには、どのような工夫ができるかを話し合う	<input type="checkbox"/> 活動を振り返り、自分や友達によさに気付いたり、互いに助け合うことの大切さに気付いたりできるようにする。  ☆話し合い活動の充実 (イ)	思(4) 知(5)

※生活科指導案のため、他教科の評価基準は記載を省略。



7 本時について（16／21時間）

（1）本時の目標

- ・相手や目的に応じて，伝えたいことを表現しようとするができるようにする。
- ・多様な手段の中から，相手や目的に応じた伝え方を選んだり，活用したりできるようにする。
- ・遊びの約束やルールなどを考え，遊びをつくり出そうとすることができる。

（2）本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 ・ 予想される児童の発言	○ 教員の支援 ☆ 主題に迫るための手だて ((ア), (イ)) ◆ 評価規準 (評価方法)
導入	<input type="checkbox"/> 自分たちの考えた遊びを確認する。 <input type="checkbox"/> 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     だれもが楽しめるあそびになるように，やくそくやルールをくふうしよう。                 </div>	
展開	<input type="checkbox"/> 「誰もが楽しめる」とはどのようなことか考える。 ・ ルールがわかりやすい (→どうなっているとわかりやすいかな?) ・ ルールが簡単なこと (→簡単すぎてつまらなくなる子もいるのではないかな?) <input type="checkbox"/> 今までの経験から，その子の力にあったルールで楽しめたことを話し合う。 ・ お祭りで輪投げをしたときに投げる位置が違った。 ・ 縦割り班のときに学年でルールが違った。 <input type="checkbox"/> 自分たちの考えた遊びを「誰もが楽しめる遊び」にできるようグループで話し合う。 <input type="checkbox"/> グループごとに工夫できそうなこと，話し合ったことを紹介する。	○ 思いつくものを次々発表させることで，話し合いのしやすい雰囲気を作る。 ○ 児童の発表について，「そのためにどうするか。」と考えられるように言葉を返す。 ☆ 副籍交流の時のY君の様子を想起させる。(イ)① ○ 近くの友達と話し合うことで考えを伝えやすいようにする。 ☆ ボッチャのルールを思い出させ，柔軟な行い方があることを知る。(イ)② ○ おもちゃグループに分かれてから，自分たちの遊びを確認させる。 ☆ ルールやきまりの工夫を書き込めるワークシートをもとにグループごと話し合う。(イ)③ ◆ 多様な手段の中から，相手や目的に応じた伝え方を選んだり，活用したりできるようにする。(観察・学習カード) ◆ 遊びの約束やルールなどを考え，遊びをつくり出そうとすることができる。(観察)

<p>終末</p>	<p>□本時の学習を振り返り，学習カードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが楽しめるルールにするのが難しかった。</li> <li>・みんなで話し合っって楽しそうなルールにできたからよかった。</li> </ul> <p>□次時の見通しをもつ。</p>	<p>○「どうだった」「どうして」「どうしたら」という項目で振り返ることができるカードにすることで，振り返りをしやすくする。</p>
-----------	--	--

## 研究協議会記録

### (1) 研究協議

- ① 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という実感をもてるような単元構成の工夫
- ・一度個人で作りたいおもちゃを作って遊んでから、グループで新たに遊びを考えるという単元構成だったので、活動をイメージしやすかった。一方で、まだ手元に具体物がない状況でルールを考えることに難しさがあったのではないかと。グループによっては、磁石やボールなど、考えの手助けになる具体物が用意されていてよかった。
  - ・副籍交流児の存在をどの程度出すとよかったのだろうか。学期1回ずつ、年3回の交流があり、本時は2回目と3回目の間に位置する。「誰もが楽しめる」という視点で活動していく中で、副籍交流児を招待したいという考えになるかもしれないし、1年生を招待したいという考えになるかもしれない。
  - ・単元構成が自然に流れていてよかった。最初に導入があり、グループで工夫を考え、それを発表するというシンプルな流れが分かりやすかった。
- ② 多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定の工夫
- ・1学期に音楽科で行った副籍交流時の様子を写真で振り返ったことで、児童が自然と行っていた相手への配慮を思い出し、全体で共有することができた。
  - ・「誰もが楽しめる」というテーマだったが、「ボールを投げるのが苦手な人」「その遊びに慣れている人」と、児童なりにより具体的に相手を設定して遊びを考えていた。
  - ・学級の雰囲気がよく、どんな意見も快く受け入れられている。どの班も活発に意見を交流していた。

### (2) 全体講評（ 山中 ともえ 本校校長 ）

- ・生活科の目標である「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていく」ということを達成しつつ、校内研究との関連も考える必要がある。本日の授業では、評価規準は達成できたように思う。
- ・教科の目標以外にも、副籍交流の視点で考えることも大切である。今回の研究では、「誰もが楽しめる」というと遊びを考える際に、子供たちが自然と相手への配慮を考えたり、一緒に楽しもうとしたりすることができた。次に会うときのことが楽しみになるという、交流の発展が見られる。
- ・日常の取組として、構成的グループエンカウンターや、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、子供のつぶやきや感想、行動を記録しておくことで、子供の変容を捉えることができる。他にも友達関係のトラブルなどで指導したこともよい機会となる。

## 成果と課題

	成果	課題
単元構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発言や関わりを振り返るごとに、児童の発言や友達との関わりの様子から気づきや変化を見取り、児童とともに振り返ることを通して、ものの見方・考え方が「変わった・広がった・深まった」という実感を味わうことができた。</li> <li>・学習の流れで、「やってみる」→「振り返る」→「やってみる」という学習の流れにすることで、児童が自分の課題を明確に捉えられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さらに工夫する」の焦点が、「道具への工夫」と「ルールへの工夫」に大きく分けられるとしたら、その整理も必要だった。(発問・ワークシート)</li> <li>・「だれもが」は、誰を想定するのかということで、目的意識に戻る必要がある。</li> </ul>
場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定を工夫した。</li> <li>・副籍交流で在籍する児童と交流することで、特別支援学校がどのような場所かということについて興味をもち、自分たちと同じところや違うところがあるということに気付けた。</li> <li>・地域に住むパラリンピアンを講師に招いてボッチャを体験することを通して、講師の方のお話を伺ったり一緒にボッチャに取り組んだりすることで、障害について学ぶ機会となった。また、「誰もが楽しめるスポーツ」という視点から、遊びづくりについても、誰もが楽しめる遊びや遊びに使う物がどのようなものであればよいかを考えることができた。</li> <li>・グループや全体での話し合いの場面を多く設定することで、児童が自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしやすい雰囲気を作ることができた。その中で、自分と同じ考えや違った考えがあることに気付けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの中で、アイデアや発言力がある児童に引っ張られていた。相手の気持ち、考えをくみ取るのはまだ難しいため、どのように声掛けをしていくかが課題である。</li> </ul>
日常の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会のよいところ見付けの活動により、児童が友達のことを意識したり、友達から認めてもらえたことで、学級の雰囲気がよくなった。</li> <li>・普段から小グループでの話し合いの時間を設けることで、自分の意見を伝えたり、友達の意見を受け入れたりすることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表する児童や、発表してもらった児童が固定されてきている。多くの友達に目を向けたり、誰もが発表できるような場面設定をしたりしていくことも必要である。</li> </ul>

# 中学年分科会

## 第3・4学年



## 第3学年総合的な学習の時間 学習指導案

令和2年12月9日5校時  
調布市立飛田給小学校  
第3学年2組27名  
授業者 佐々木 朗

### 研究主題

「多様性を尊重し、互いに認め合える児童の育成」  
～オリンピック・パラリンピック教育を通じた障害者理解を軸として～

#### 1 単元名「 だいすき飛田給 」

#### 2 単元の目標と評価規準

##### (1) 単元の目標

町づくりや地域活性化のために行われている様々な取組を知り、地域のよさを実感するとともに、地域の一員である自分自身の生活や行動を振り返り、地域のためによりよく考えたり行動したりする。

##### (2) 単元の評価規準

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (主)
(1) 地域の人の話から、町のために行っている活動のよさと、それらは地域の人々の努力や工夫によって支えられていることについて理解している。 (2) 自分で設定した課題を解決するために、インタビューやウェブサイトから検索ソフトを使って情報を集めている。	(1) 地域をよりよくするために、自分が追求したい課題を決めている。 (2) 地域をよりよくするための活動について、整理したり、分析したりしている。 (3) 相手や目的に応じた方法で、まとめたり、表現したりしている。	(1) 課題解決に向け、自分のよさに気づき、探究活動にすすんで取り組もうとしている。 (2) 自分と違う意見や考えの良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。 (3) 地域との関わりの中で、自分でできることを見付けようとしている。

#### 3 単元設定の理由

本校は、調布市の西端に位置し、府中市と隣接した静かな住宅地を学区とする。近くには多摩川が流れ、自然が多い。また、町の伝統を伝え、安全や環境を守ろうとしている人々が多く、人の温もりの感じられる地域でもある。

本単元では、身近な地域の良さや地域のために活動するいろいろな人々に着目させ、地域の文化や伝統、自然の良さを調べる活動を通して、それらを創り、育て、守る人々の存在や想いに気付かせたい。また、地域の一員として生活し、できることをしていこうとする態度を育てる一助としたい。

#### 4 児童の実態

本学級の児童は図書館、青少年交流館、公園などを利用したり、地域のお祭りや健全育成ソフトボールに参加したりしていて、様々な場面で地域の人々と交流している。その中で自分たちの身近な町の良さを調べ、自分たち自身が地域の良さや人々の想いを知る「大好き飛田給」に取り組んだ。学習の深まりの点については、目の前に見える事象（社会科では公共施設や商店など、本単元では地域の自然や地域の活動）はとらえることはできるが、その良さや特徴、それらにかかわる地域の人々にはまだ自分で気付くことができない児童が少なくない。そこで、活動を充実させ児童がそれぞれのグループで学習した内容を発表し、その情報を全体で共有して児童自身に地域の良さや人々の想いに気付かせ、学習を深めていきたい。

#### 5 研究主題に迫るための手立て

(1) 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という経験や過程を重ねていくための工夫

##### ① 単元および1単位時間の構成の工夫

地域には、どのような活動や施設の工夫があるか情報を集めたり、整理分析したりする。その中で、自分も地域の一員であり、様々な人とのつながりによって過ごしやすい生活を送ることができていることに気付き、地域のために何ができるのか考えていけるようにする。

そのために、人とのかかわりを中心に、目的を明確にしてめあてを子供たちと設定する。

##### ② 振り返りの工夫

1単位時間及び単元の振り返りを「自己の変容」という視点でも振り返ることができるようにワークシートに振り返りの欄を作り、1単位時間の学びを振り返るようにさせる。

##### ③ まとめ・表現の工夫

まとめの場面では、学習したことを元にそれぞれの立場の人が、いろいろな思いで地域のために行動していることについて感じたり理解したりしていることを表現できるようにする。また、センテンスカードを使い、児童が視覚的に分かりやすいように黒板に提示する。

(2) 多様な人々との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有するための工夫

##### ① 場面設定の工夫

自治会、健全育成推進委員等地域の活動、お囃子保存会、消防団などに深く関わっている方に、ゲストティーチャーをお願いする。その中で、様々な立場の方が町や自分たちのために関わっていることを、お話を聞く中で気付けるようにする。また、自分たち以外の町の様々な立場の人たちがどのように地域の生活をよりよくしたり助け合ったりしているか調べる場面を設定する。

##### ② グループ編成の工夫

実際に地域の活動にかかわっている児童や、それぞれの地域の活動への興味関心によって、グループ編成を行うことで、より深くテーマを探求したり、自分たちの地域への思いや願いを実現させたりすることができるようにする。

##### ③ 地域の人々と一緒に活動している児童のリーダーシップ

地域の人々と、地域をよりよくするための活動（防災訓練やソフトボールなど）にすでに参加している児童や家族が地域の活動に取り組んでいる児童にリーダーシップを発揮してもらい、地域の人々の思いや活動を詳しく話してもらう。

6 単元指導計画【全19時間（○内は時間数）】

次	□主な学習活動	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて((1), (2)) ◆評価規準	他教科との関連
<p>一次 地域の活動や人々の思いを知ろう</p>	<p>□飛田給のまちの好きなところを話し合う。①</p> <p>□自分自身や家族の10年後を想像し、飛田給のまちの未来を考える。①</p> <p>□ストリートビューで地域のよいところや問題点を調べる。②</p> <p>□まちでいろいろな活動をしている人の話を聞く。③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健全育成</li> <li>・宮ノ下図書館</li> <li>・おはやし（音楽）</li> <li>・消防団</li> </ul>	<p>○利用したことのある場所でどんなことをしたのか、そのときどう感じたか、なぜその場所が好きなのかなど具体的に話し合うよう助言する。 ☆(1)①② ◆主(1)</p> <p>○未来の自分自身と飛田給を想像させ、飛田給のまちへの願いや思いを理由とともに話し合うよう助言する。 ☆(1)①② ◆知(2)主(1)</p> <p>○まちの好きなおところや通学路などまちの様子をストリートビューで改めて確認するよう助言する。 ☆(1)①② ◆知(2)主(1)</p> <p>○ゲストティーチャーの話を聞く場を設ける。 ☆(1)①②(2)①③ ◆知(1)(2)</p>	<p>「社会」 ・調布市の様子</p> <p>「社会」 ・調布市の様子（公共施設）</p> <p>「国語」 ・くらしと絵文字 「道徳」 ・くらしの中のユニバーサルデザイン ・みんながくらすまち</p> <p>「音楽」 ・地いきにつたわる音楽</p> <p>「社会」 ・火事から町を守る 「国語」 取材して知らせよう（話の聞き方、質問の仕方、メモの取り方）</p>



	<p>□さらに興味をもったことについてグループに分かれて調べる。②</p> <p>□グループでこれまでの学習をまとめる。②</p>	<p>○テーマごとにグループに分かれて調べる。 ☆(2)①②③ ◆知(2)思(1)(2)</p> <p>○グループごとにこれまでの学習をまとめる。 ☆(2)①②③ ◆思(3)主(1)</p>	
<p>一 次 地 域 の た め に 自 分 が で き る こ と を 考 え よ う</p>	<p>□グループでまとめたことを交流し、まちのために自分たちにできることを考える。①(本時)</p>	<p>○一次で調べたことや、ゲストティーチャーの話を聞いて分かったことから、「このまちのために自分たちにもできること」を考える。 ☆(1)③(2)①② ◆主(2)(3)</p>	<p>「国語」 取材して知らせよう (話の聞き方、質問の仕方、メモの取り方)</p>
	<p>□ゴール(このまちのために自分たちが行うこと)を見据えて今後の活動計画を立て、グループで準備を進める。②</p>	<p>○「個人でできること」、「みんなでできること」に分けて考える。 ○最終ゴールを遂行する(地域をよりよくする)ための計画準備であることを確認する。 ☆(1)①② ◆思(2)主(2)</p>	
<p>三 次 地 域 の た め に で き る こ と を 行 お う</p>	<p>□地域のために自分たちができる活動を実践する。②</p> <p>□実践したことを分析・評価する。②</p> <p>□これまでの活動を振り返って自己の成長に気付き、これからの自己の生き方について考える。①</p>	<p>○地域の人たちと一緒に実践しする。 ☆(1)②③(2)① ◆主(3)</p> <p>○活動を実践してつかったことや考えたこと、地域の方々の反応など客観的・具体的な分析・評価を行う。 ☆(1)②(2)② ◆思(2)</p> <p>○活動をして、これからの自分の生き方を考えるよう助言する。 ☆(1)②③ ◆思(3)主(1)</p>	

7 本時について（12／19時間）

（1）本時の目標

地域のために行われている活動や地域施設について、まとめたことや考えを共有し合い、自分たちにできることを考える。

（2）本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 ・予想される児童の発言	<input type="checkbox"/> 教員の支援 ☆主題に迫るための手だて ◆評価規準
導入	<input type="checkbox"/> 本時のめあてを確認する。  調べたことを交流し、自分たちにできることを考えよう。	<input type="checkbox"/> 学習の流れについて黒板に表示して確認する。
展開	<input type="checkbox"/> グループごとに地域の人々の活動をについて調べたことを報告する。 ・公園は人々の憩いの場としてだけでなく、災害時には避難者（高齢者や障害者、外国人）のために使いやすくなっている。 ・健全育成や老人会の人たちは、地域の安全を守るためのパトロールや見守りをしてきている。 ・老人会の方は、防犯と環境保全のために公園の草花を植えてくれている。 ・自治会では、地域の様々な人々が交流できるように、盆踊りを開催している。 ・お囃子保存会の人たちは、地域の伝統を伝えている。 ・宮ノ下図書館の方は、地域の人たちに読書の楽しさを伝えるために図書の展示や読み聞かせの会を開催している。また、目の不自由な人たちにも楽しめる点字の本やオーディオブックをそろえている。 ・消防団の人たちは、自分の仕事をもちながら、地域の防災のために活動している。 <input type="checkbox"/> 活動内容、利用者参加者などを比べて分かったことや気付いたこと考える。 ・小さな子どもから高齢者、障害者まで参加できる取り組みがある。 ・全ての活動が地域の人のためにやっている。 <input type="checkbox"/> 自分たちにできそうなことを考える。（グループごと） ・ゴミ拾いはできそう。 ・花壇にお花を植えてみたい。 ・おはやしに参加してみたい。 ・あいさつをしたい。 <input type="checkbox"/> 自分たちにできそうなことを発表する。	☆地域の活動は、いろいろな人の思いや考えがあって行われていることに着目できるようにする。（1）①  ☆黒板に並べられたそれぞれの活動について目的や利用者などを比べて話を聞くことを確認する。（1）③  <input type="checkbox"/> 地域の方のお話を思い起こせるように、グループごとに発表してから話し合いを行うことを確認する。  <input type="checkbox"/> 自分の班で調べたこと以外にも、地域のために活動している人がいることを確認する。  <input type="checkbox"/> 教師が黒板に気付いたこと、分かったことをまとめる。  ☆一人一人に自分の考えをワークシートに書かせ、それを基にグループで話し合うようにする。（2）②  ◆主（2）（3）  <input type="checkbox"/> 多様な考えが出るように様々な児童の意見を聞く。
終末	<input type="checkbox"/> 学習感想を書く。 <input type="checkbox"/> 次時について予告する。	

(3) 板書計画

活動名	利用者 対象者	目的	調べたことを交流し、自分たちができていることを考えよう
おはやし 図書館 老人会 自治会	子どもから大人 子どもから大人 60 さいから 大人	地いきをもちあげる 本のよさを伝える ごみのない町を作る	<p>【参加者や目的を比べて気付いたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高れい者まで参加できる取り組みがある</li> <li>・すべての活動が地いきのためにやってる</li> </ul>
けんぜん育成 ソフトボール	子どもから大人	心と体の成長のため	<p>【自分たちにできること】</p>
消防団 公園の防災活動	18 さいから 子どもから大人	安心・安全を守る 防災について知って もらう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ拾い</li> <li>・花を植える</li> <li>・おはやしに参加したい</li> <li>・あいさつをしたい</li> </ul>
			<p>【ふりかえり】</p>

8 研究主題に関わる目指す児童の姿（本単元において）

- ・地域の様々な立場の人のために、自分ができることを見付け、行動することができる。

## 研究協議会記録

### (1) 研究協議

- ① 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という実感をもてるような  
単元構成の工夫
  - ・町の人々の活動が何のための活動なのか、自分事としてとらえるのは難しい。全体での話合いで、  
思いを深められるとよかった。
  - ・グループごとの発表より、グループの交流に時間を取れるとよかった。
  - ・情報を整理・分析するのに、センテンスカードは有効であった。
  - ・道徳授業地区公開講座の演奏や講演を児童の発言につなげて児童に返していたことがよかった。
- ② 多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定の工夫
  - ・テーマごとにメンバーを分けて、違うテーマの人を混ぜてグループにするとより深まったので  
はないか。
  - ・様々な人から実際に話が聞けたことはよかった。それぞれの活動が町の全ての人を対象にして、  
町のために行われているということを実感をもって理解したのではないか。
  - ・一人一人の考えをグループの一人がまとめて発表していた班があったが、他にも良い意見がた  
くさんあった。皆で共有できるとよかった。

### (2) 全体講評（ 国立特別支援教育総合研究所 上席統括研究員 久保山 茂樹 先生 ）

（ 国立特別支援教育総合研究所 研修事業部総括研究員 宇野 宏之祐 先生 ）

- ・多様性に関わる発言がごく自然に出ていた。クラスに根付いていると感じた。
- ・児童一人一人が課題意識をどれだけでもっていたのか。個人の課題，グループの課題，学級の課題と  
いろいろあるので，課題をもっと絞って明確化した方がよかった。
- ・課題を解決するために，学級全体で「どうしようか」と同じ土俵に乗せて考え，探求していく必要  
がある。例えば，点字ブロックは北向き，南向きに歩いている人が同じブロックの上を歩くこと  
になってしまう。ユニバーサルデザインといえるのかと課題を明確化し，それを種として，できるこ  
とを考えていく。多様な考えが生まれることで，自己理解・他者理解につながっていく。
- ・学級の活動と障害者理解教育との往還が大切である。
- ・障害者理解教育を中心とした取組が，何に向かっていくのか（10年後，20年後の共生社会の担  
い手を育む）という視点をもう一度はつきりさせてまとめに向かっていくとよいのではないか。

## 成果と課題

	成果	課題
単元構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動について、分かったことをセンテンスカードにまとめ、全体で整理分析することで、自分たちがこれから考えていく方向性が明らかになった。</li> <li>ワークシートに振り返りの欄を作り、一単位時間ごとに記入することで、前の時間のことを思い起こしたり、単元を通じた自分の思いや考えの変化を振り返ったりすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、地域の様子をストリートビューで調べたが、実際にフィールドワークをしながら、問題点を見出していけるとよかった。</li> <li>「自分たちにできること」を考える活動は、第一次で問題点を共有し、教師が整理しながら課題を焦点化させることで、より自分たちの問題となったと考える。</li> <li>次時の「自分たちにできること」の活動計画は、自分でできることとみんなで取り組むこととを分けて提示すると課題が明確になる。</li> </ul>
場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域でいろいろな活動をしている方から実際に話を聞くことで、自分たちには気付かなかったことや、地域の方の思いに触れることができた。</li> <li>地域の活動に参加している児童にリーダーシップをとってもらうことで、学習が深まり、友達の理解にもつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が主体的に考えるために、発表のためのグループ作りは、違うテーマを選んだ人同士で組ませる方法もあった。</li> </ul>
日常の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の良い所見付けや一日の良かったことの発表は、お互いの良さを全体で共有することができて、自己理解・他者理解につながった。</li> <li>いろいろな機会を通して「一人一人違うんだね。」と個性の尊重につながる声掛けをすることによって、支援の必要な児童に対して、学級の児童から理解のある発言が出てくるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぐるえんタイムの取組は学級活動の時間に発展的に扱うことで、より深まったのではないかと。</li> </ul>

## 第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和元年6月26日5校時  
調布市立飛田給小学校  
第4学年2組34名  
授業者 岩田 順子

研究主題 「多様性を尊重し、互いに認め合える児童の育成」  
～オリンピック・パラリンピック教育を通じた障害者理解を軸として～

### 1 単元名 「長生きしてね」

### 2 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

身近な高齢者の方や高齢者を支える方との交流を通して、高齢者について理解を深め、高齢者の方々と共に生きていくために、自分たちにできることを考え、実践していく。

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (主)
(1) 高齢者の生活と高齢者を支える取り組みを理解している。 (2) 目的に応じた情報収集・表現方法を理解し、活用している。	(1) 高齢者の生活と現状について、多様な視点から考え、課題を見い出している。 (2) 高齢者や高齢者を支える人々との直接的な関わりや資料から情報を収集している。 (3) 集めた情報を目的を明確にし、相手意識をもって整理・分析している。 (4) 相手や目的に応じた方法で、まとめたり表現したりしている。	(1) 身近な高齢者や高齢者を支える人々に関心を持ち、すすんで関わっている。 (2) 高齢者の立場になって、自分たちにできることを考え積極的に発信している。

### 3 単元設定の理由

4年生の総合的な学習では、年間を通して福祉を扱う。1学期は比較的自分自身とつなげて考えることのできる「高齢者」に視点を当てる。日本は4人に1人が高齢者となり、超高齢化社会を迎えている。世間では、高齢者に関する問題が毎日のように報道され、地域にもお年寄りの姿が目立つ。これから、高齢者とどのように関わっていくのか、児童にも考えさせたい課題といえる。

他者を理解するには、まず相手のことを知ることが大切だと考えるが、高齢者の方と関わる機会としては、学校に隣接している「爽々荘」という特別養護老人ホームに4年生全員で見学に行き、交流を図

る。爽々荘には90歳以上の高齢の方や認知症の方も多く入所されている。また、地域のお年寄りの方が多く利用されている「地域福祉センター」が歩いて数分の所にあり、調べ学習の際には直接インタビューをするなどの活動が取り入れやすい。校内の管理補助員である「シルバーさん」は高齢でありながら元気に働いておられる最も身近な存在である。一方、高齢者を実際に支える側からは、社会福祉協議会の方からお話を聞くことができる。様々な環境にいる高齢者の方々、そして支援する方々と、多角的に物事を捉える事のできる単元と考える。

児童が様々な立場の人々との関わりの中で、自分との違いに気付き、相手の立場に立って自分たちに行えることを考え、行動できる力を育てていけるようにと、本単元を設定した。

#### 4 児童の実態

本学級の児童の祖父母の年齢は概ね60代～70歳前後であり、後期高齢者の世代まではいかない。祖父母が徒歩圏に住んでいるという家庭は3分の1ほどあるが、同居している児童は一人もいない。児童にとって、祖父母は一緒に遊んでくれる元気なおじいちゃん、おばあちゃんという存在で、高齢による不自由さを実感する環境とはいえない。

人との関わりについての意識調査では、4分の3の児童が人と関わることを好きと答えている。自分に良い所があると答えた児童は6割弱で、自己肯定感が高いとは言えない。普段の授業でも自分の考えはしっかりと書けていても、発言する児童はあまり多くなく、自信のなさや、間違いたくないという気持ちを感じられる。安心して自分の意見を発言し、お互いに高め合えるような学級作りが必要と感じている。

#### 5 研究主題に迫るための手立て

##### (1) 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という実感をもてるような単元構成

他者を理解するためには、まず自分に目を向ける必要がある。単元の導入では、自分と高齢者との違いを考え、関心が高まるようにしていく。交流や追究活動後には、高齢者への認識や考えが変わっていったことが自覚できるように、毎時間振り返りカードを書くようにする。

整理・分析の段階では、同じグループや学級全体の話し合いの中で、自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点に着目させる。友達と話し合うことで、自分の考えが広がったり深まったりしていくように、児童の発言をつなげるような発問を工夫する。

##### (2) 多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定

高齢者施設の訪問では、見学をするだけでなく、一人一人が自己紹介をしてから質問をしたり、高齢者の方と手遊びをしたりと、心が通い合うような場面設定をする。訪問やインタビューは、複数の機会を設定し、高齢者といっても、元気で働いている方、趣味を楽しんでいる方、認知症や車いすの生活で不自由をしている方など、人によって様々であることに気付かせる。

また、社会福祉協議会の方や認知症サポーターの方をゲストティーチャーに迎え、高齢者を支える地域の方の工夫や努力にも目を向けることができるようにする。

6 単元指導計画【全 21 時間（○内は時間数）】

次	探究	□主な学習活動	○教員の支援 ☆主題に迫るための手立て（(ア), (イ)）	評価 規準
一次 地域の高齢者の方と交流しよう⑦	課題設定②	□自分のおじいちゃん,おばあちゃんについて話し合う。 □日本は高齢化社会になっていることを知り,学習のねらいをつかむ。 □高齢者と自分達との違いについて考える。	○すごい所,大変そうな所を含め,自由に出し合うようにする。 ○社会科との関連から,みんなが暮らしやすい町にしようという意識をもたせる。 ☆自分とつなげて考えられるようにする。(ア)	主(1)
	情報収集③	□調布市社会福祉協議会や包括支援センターの方々から高齢者の現状と認知症について話を聞く。	☆多様な方から話を聞けるようにする。(イ)	知(1) 思(2)
	整理分析①	□交流を通して気付いたこと,感じたことを整理・分析する。	☆自分の思いや気付きを記録させる。(ア) ○クラス全体の意見を一覧表にし,全体で共有できるようにする。	知(1) 思(3)
	まとめ①	□見学,交流を基に,これから何をしていきたいかを考える。	☆学習のゴールイメージを学級全体で話し合い,「この学習を通して,自分たちがどんなふうになりたいか」という具体的な姿を共通理解する。(ア)	思(4)
二次 高齢者について,自分たちにできることを伝えていこう⑭	課題設定①	□学習のゴールイメージに向け,課題を設定する。	○友達と協働して追究活動ができるように課題別グループを作る。	思(1)
	情報収集⑥	□追究したいことを決め,本,インターネット,インタビューなどの方法で調べる。 □爽々荘に見学に行き,交流をする。 ・全員が自己紹介をし,質問をする。 ・一緒に手遊びをしたり,歌や踊りを披露したりする。	○図書の本は司書の方に市から用意してもらい,インターネットは分かりやすいサイトを予め学年で探しておく。 ☆高齢者の方ができそうな手遊び歌や飛小伝統のゆずりは音頭を披露し,楽しい時間を共有できるようにする。(イ)	主(1) 知(2)
	整理分析②	□追求した内容を同じグループ同士で伝え合い,整理する。(本時) □話し合ったり,発表を聞いたりして考えてことをまとめる。	☆自分が伝えたいこととその理由を明確にさせる。(ア) ○他のグループの意見が分かりやすいように,ポスターセッションで行う。	思(3)
	まとめ・表現⑤	□自分たちにできることは何かを考え,次の学習につなげる。 □単元を通した振り返りをする。	☆これまでの活動を振り返り,自己の成長に気付けるようにする。(ア)	主(2)



7 本時について（15，16／21 時間）

(1) 本時の目標

目的意識や相手意識を明確にし、調べたことを基に自分たちが伝えたいことを考える。

(2) 本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 ・ 予想される児童の発言	○ 教員の支援 ☆ 主題に迫るための手だて ((ア), (イ)) ◆ 評価規準
導入	<input type="checkbox"/> 前時までの学習を振り返る。 <input type="checkbox"/> 本時のめあてを確認する。 高齢者について、みんなに伝えたいことを考えよう	○ 単元の目標を確認する。 ○ 自信をもって言えるように、自分が伝えたいことを書いた短冊を確認させる。
	<input type="checkbox"/> グループに分かれ、調べて分かったこととそれについての自分の思いや考えを一人ずつ出し合い、短冊を模造紙に貼る。 ・ 高齢者に人気のスポーツは、ゴルフとボッチャと・・・。高齢者になってもいろいろなスポーツができるんだな。 ・ 認知症は脳の病気だけど、接し方で良くなることがあるとは思わなかった。	☆ 調べたことだけでなく、そこから自分はどう思ったのかを明らかにさせる。(ア) ☆ 友達の意見を聞く時は、自分の考えとの共通点や相違点に着目させる。(ア) ○ なぜ、それを知ってもらいたいのか、理由を言うようにさせる。
展開	<input type="checkbox"/> 学習の目標に向けて、みんなに伝えたいことを考え、模造紙にまとめる。 ・ 高齢者になっても元気に働いたり、運動をしたりすることが生きがいにつながっている。 ・ 認知症への接し方をみんなが知っておくと、高齢者の人も安心して生活できると思う。 <input type="checkbox"/> グループでまとめた内容をお互いに発表し合う。(4グループずつ)	↑ 2時間扱いにする。 ◆ 自分の思いや考えを目的意識と相手意識をもちながら話したり、自分の考えと比べながら聞いたりしている。思(3) (発言・行動観察) ☆ 各グループの内容を全体で共有し、高齢者について多面的・多角的に捉えられるようにする。(イ) ○ 意見交換がしやすいように、ポスターセッションで行い、聞く時の観点(なるほどと思ったこと、いいなと思ったこと、分からないこと)を示す。
終末	<input type="checkbox"/> 本時の学習を振り返り、学習カードに書く。 ・ 他のグループの人が、自分たちの話をよく分かってくれてうれしかった。 ・ 自分にもできそうだった。 <input type="checkbox"/> 次時の見通しをもつ。	☆ 自分の考えの深まりや変化を自分の成長と捉えられるように価値付けをする。(ア) ○ 振り返りの観点を示す。 ①めあてに対する振り返り②友達の考えや取り組みで良かったこと③学習をする中で、考え付いたこと、疑問に思ったこと④次にしたいこと

## 8 板書計画

長生きしてね

めあて

〈みんなに伝えたいこと〉

学習の目標
学習計画

高れい者についてみんなに伝えたいことを考えよう

〈学習の流れ〉

- 調べて分かったことを整理する。
- グループとして、みんなに伝えたいことをまとめる。
- 他のグループに発表する。

〈聞く時のポイント〉

自分たちとのちがい	高齢者の人口	高齢者しせつ
元気のひけつ	不自由になったこと	ふだんの生活
高齢者の生きがい(しゅみ、楽しみ)	不自由になったこと	ふだんの生活

振り返り 〈 振り返りのポイント〉

## 9 ワークシート

<b>長 生 き し て ね</b> 学習の目ひょう	「 <input type="text"/> グループ 」
-------------------------------	-------------------------------

4 年 組 名 前

月 日	今日の活動と感想	ふり返り ◎○△	先生
/			
/			
/			
/			

## 研究協議会記録

### (1) 研究協議

- ① 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という実感をもてるような単元構成の工夫
- ・「伝えたいこと」という発問は分かりにくかった。「話し合っただけのこと」の方がよかった。また、自分の書いた短冊について、なぜ伝えたいと思ったか共有する時間があるとよかった。作業に時間を取られていた。
  - ・交流して気付いたこと→調べたいこと→個々の調べ学習→グループでのまとめという流れにより、考えが少しずつ広がっていった。
  - ・自分の思いや考えを短冊に書いて出し合うことで、自分の考えと友達の考えを比べることができていた。
  - ・グループでの話し合いは、多い意見に賛同するというより、自分が考えさせられた意見に思いを寄せられていた。
  - ・今日の学習から更に調べたい、伝えたいと思うことが、総合的な学習の時間として深まっていくのではないか。
  - ・他者と自分の考えを整理、分析する力をもっと養っていきたい。
- ② 多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定の工夫
- ・介護する人に目を向け、その人達を励ますことの大切さに気付く子がいた。
  - ・交流を通して、題材に対して追究したいことには、実感が伴っていたのか。
  - ・自己理解、他者理解が深まった、また自己理解が他者理解にどうつながっていったのかについては、どの点を捉えたらよいのか。

### (2) 全体講評（ 国立特別支援教育総合研究所 上席統括研究員 久保山 茂樹 先生 ）

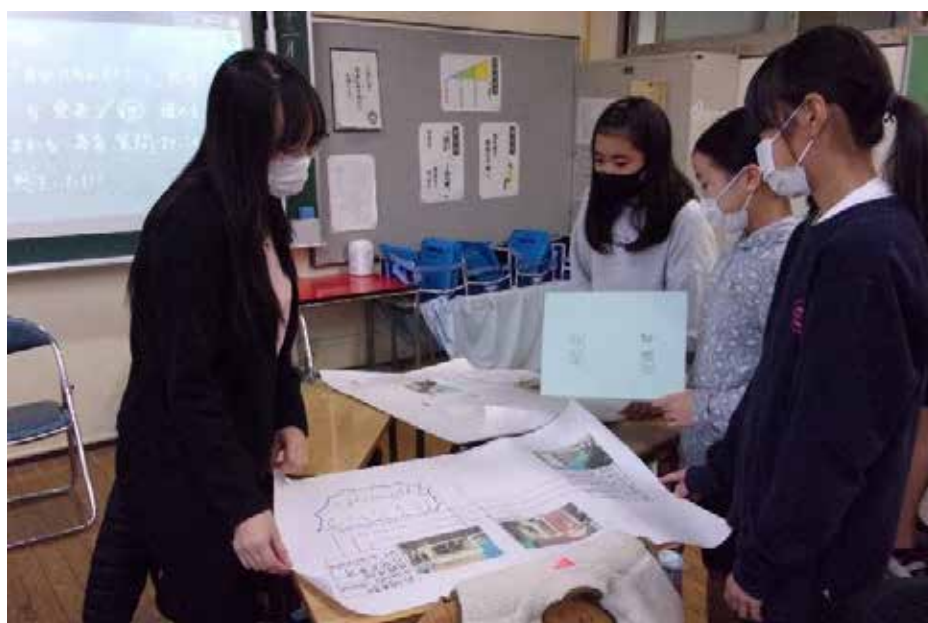
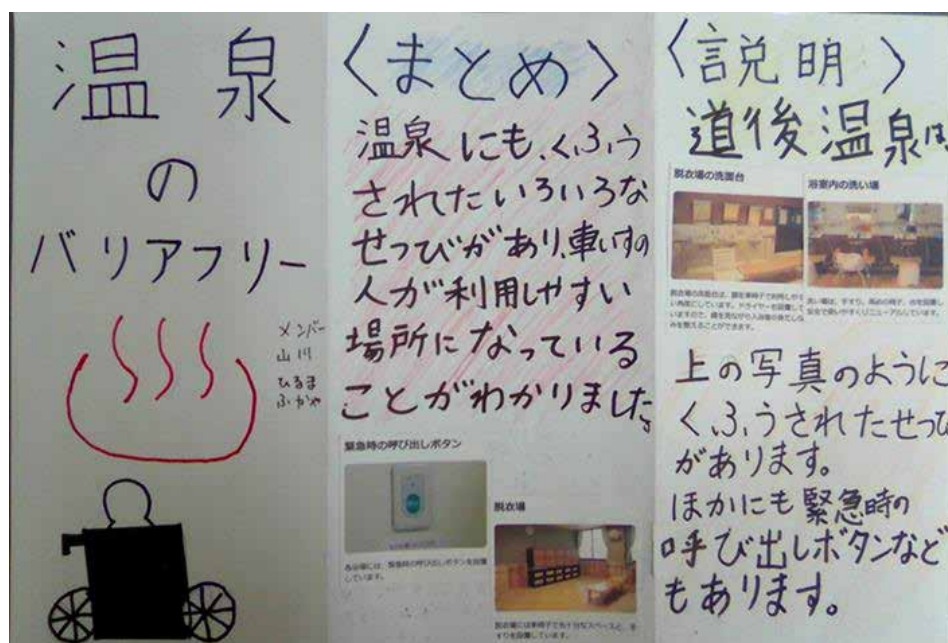
- ・高齢者を考える前に、自分のことを見つめることが必要。誰にでも苦手なことや弱点があり、支援を受けない人はいないということをお子たちに理解してほしい。高齢者は遠くにいて、自分達はそこを眺めるという関係ではなく、連続しているもの、つながっているものという考え方が大切。
- ・多様性を尊重するとは、いろいろな人と共に生活していくことを自分の事として考えること。普段の生活場面でどうか、隣で困っている人がいたらどうするかという視点を学習に生かしたい。
- ・高齢者が大変な存在、調べる対象となっていないか。「調べよう、大変なこと」という投げかけで導入することで道筋が決まってしまう。高齢の方から学ぶことはないのか、助ける存在なのか、そうではない場面の方が多いのではないか。おじいちゃんってどう？というスタートのさせ方をしたい。
- ・障害はどこにあるのか。人に付いているものではなく、社会や人と人の間にあるもの。「障害者」ではなく「障害のある人」ではないか。言葉の使い方を子供たちと一緒に考えていく必要がある。

## 成果と課題

	成果	課題
単元構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループごとにテーマを決めたことで、話し合いの焦点が絞られた。</li><li>・グループごとにまとめたことをポスターセッションの形でクラスの中で発表し合うことで、対話が生まれ考えが全体に広まっていった。</li><li>・養護老人ホームの見学と交流を通して調べたいことを追究したことは、課題がはっきりとして意欲的に追究活動を行うことができた。</li><li>・交流や話し合い、調べ学習の後で振り返りカードに思いや考えを書くことで、自分の考えをはっきりさせることができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・調べたことを基に話し合ったり、交流したりする中で、本当の課題が見えてきた。追究活動を深めていくための単元構成にしていきたい。</li><li>・学習のゴールをどこにするのか、自分達の生活に生かすという認識が足りなかった。</li><li>・自分達の考えを共有していくためには、なぜそう思ったのかという話し合いをさせて、深めさせたかった。</li><li>・高齢者のことを考える前に、自分のことを考えるという構成にすることで、誰にでも支援が必要な場面があり、自分事として考える学習になったのではないかと。</li></ul>
場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分の祖父母、地域支援センター、特別養護老人ホームの方など、様々な立場の人の話を聞いたり、交流をすることで多面的な見方、考え方をすることができた。</li><li>・社会福祉協議会の方の話、認知症サポート講座等、高齢者を支える立場の方の話聞くことで、自分たちができることについて、多角的に捉えることができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・特別養護老人ホームでの見学を調べ学習の前に設定したことは、高齢者は大変だというイメージが強すぎて、自分とは遠い存在だという印象をもたせてしまった。見学や交流の設定を工夫するべきであった。</li></ul>
日常の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童への声掛けは否定で終わらせず、方法を示したり、頑張りを認めたりするように心掛けることにより、友達同士の声掛けも優しさが見られるようになった。専科の授業でも安心して活発に意見を出す姿が見られた。</li><li>・ぐるえんタイムのゲームはねらいを示すと同時に、振り返りを行うことで、皆が楽しい時間を共有することができた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・3、4年生の間で発表を聞き合うなどの交流を計画的に入れると、相手の立場に立って考えたり、多様性を理解したりすることにつながったのではないかと。</li><li>・学級活動の時間も学級の実態に応じてエンカウターの取組をするとよいのではないかと。</li></ul>

# 高学年分科会

## 第5・6学年



# 第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

令和元年11月27日5校時  
調布市立飛田給小学校  
第5学年2組35名  
授業者 宮松 正法

## 研究主題

「多様性を尊重し、互いに認め合える児童の育成」  
～オリンピック・パラリンピック教育を通じた障害者理解を軸として～

### 1 単元名「車いす利用者といっしょに楽しもう」

### 2 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

障害者スポーツの体験活動を通して、障害者スポーツは、障害者だけのものではなく、人間が共によりよく生きるためのものであることに気づき、共に楽しむ態度や心情を育む。

#### (2) 単元の評価基準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（主）
(1) 自分の良さを生かして、「できる」ことがあることを理解している。 (2) 障害のある人々の生活とそれを支える仕組みや工夫を理解している。 (3) 相手の立場に立って考え、行動する大切さについて理解している。	(1) 障害のある人々の生活と現状について様々な視点から考え、課題を見出している。 (2) 障害のある人々を取り巻く環境を考え、情報収集している。	(1) 障害のある人々や支える人々に関心をもち、すすんで探究に取り組んでいる。 (2) 「他人事」ではなく、「自分事」ととらえ、自分たちにできることを考え、積極的に考えようとしている。

### 3 単元設定の理由

4年生の総合的な時間の学習では、年間を通して福祉に関わることについて学習を深めてきた。

本学年では、「オリンピック・パラリンピック教育」の一環で、体験授業を通し「障害者スポーツ」を学ぶことができた。特に「車いすバスケットボール」の観戦、「車いすラグビー」の体験をすることにより、「障害」について自分たちはどのように向き合わなければならないのかを課題とし、自分の良いところは何なのか、よいところを生かしてできることは何なのかを考えて、児童と共に取り組んだ。

他者理解は、自分のことを知り、他人事ではなく自分事に置き換えて考えることが大切である。車いすを利用されている方と共に楽しむために考え、計画し、どうしたら社会の様々な壁を乗り越えていけ

るかを考えることにより、障害への理解が深められると考えた。

児童が障害のある人を、他人事ではなく自分事として配慮し、「できる」ことを全力で取り組むことの大切さに気づき、多様性に対する理解を深めていけるように本単元を設定した。

#### 4 児童の実態

本学級の児童は、相手のことを考え行動しなければいけないことを低学年時より学ぶことができている。しかし、自分がされて嫌なことや、相手の立場になって物事を考えて、問題を解決することにはまだつながっていない。また、自分が「できない」ことは多数挙がるのだが「できる」ことを積み上げたり、自分の良さを生かして課題に取り組んだりする発想がもてていない現状がある。

人との関わりについての意識調査では、「自分にはよいところがありますか」の項目で、「思う」が64%、「あまり思わない」「思わない」が36%であった。児童の自己肯定感があまり高くないことが分かる。

#### 5 研究主題に迫るための手だて

- (1) 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という経験や過程を重ねていくための単元構成及び一単位時間の構成の工夫

本単元は、「総合的な学習の時間」として扱うだけではなく、「道徳科」において子どもたちに「良いところ」をお互いに教えあい、自分の良いところを知る活動を通して自己理解を深め、「国語科」では、自分の良いところがどんなところかを文型を決めて紹介する活動を行った。教科の枠を越えて、横断的・総合的な学習を行うことでよりよく課題を解決し、児童活動の中で様々な見方・考え方に触れられるようにする。

児童の発言を通して振り返りを重視し、日常生活の中で車いす利用者が、何が障害になっているのか、どのような願いをもっているのかを考えたり気づいたりできるように配慮し、自分の考え方が変わった、広がったと実感できるようにする。

- (2) 多様な人々との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有するための場面設定の工夫

「車いすラグビー」の体験を通して、選手が自己の良さをどのように生かして実践しているかを体験したり、質問したりすることで、自分の良いところを生かし自信をもって取り組んでいる姿に気付かせる。選手一人一人が工夫や努力を繰り返す中で、「できること」を全力で行っている姿に目を向けられるようにする。

6 単元指導計画【全12時間（○内は時間数）】

次	探究	□主な学習活動	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて ((ア), (イ), (ウ))	評価 規準
一次 自分の良いところを知る	道徳 ①	□自分の「良いところ」を友達の意見から考える。 □友達のメッセージから自分の「良いところ」を考える。	○コメントカードを準備し、友達一人一人からメッセージを書いてもらう。 ☆コメントカードを読み、自分の良いところに気付く。(ア)	
	国語 ②	□自分の「良いところ」を認め、アピールを考える。 □自分が思っていることと、友達が思っていることの違いに気付き、自分の良さを伝える。	○「私の良いところはAです。Aを生かして～をしていきたいと思います。」の文型を使う。 ☆自分の良さを生かしてできることがあることに気付く。	
二次 車いすラグビーの体験を通して、自分たちの環境を考える	総合 ③	□「車いすラグビー」についての理解を深め、誰もがよりよく生きることのできる取り組みの一つにあることを知る。	○障害に負けずに前向きに生きる姿に気付かせる。 ○支える人がいることに気付かせる。	思 (1)(2) 主(1)
	総合 ④ ⑤ ⑥	□単元全体の流れを説明し、見通しをもつ。車いすを利用する人がどのような悩みをもっているか考える。	○「大森さん」の話を通して、車いす利用者がどのような願いをもって生活しているかを気付かせる。 ☆車いす利用者が、自分のことだけを考えて生活しているのではなく、周りの人への気遣いをもちながら生活していることに気付く。 ☆自分たちの日常生活との違いや配慮にも考えを広げている。(ア)(イ)	知 (1)(2) 思(2)
	総合 ⑦	□「車いすラグビー」を体験する。 □選手が全力で取り組む姿を通し、自分たちができることを考える。	○体験活動を通して、選手一人一人が自分の良さを生かし、全力で取り組んでいることに気付かせる。(イ)	主(1)
	国語 ⑨	□「車いすラグビー」体験の感想を書く。 □自分の考えた楽しみ方を確認し、再構築する。	○見たり、聞いたりしたことを率直に書かせる。 ☆選手の動きを見たこと、思いを感じたことを表現している。	
	総合 ⑩ (本時)	□グループで自分が考えた、車いす利用者と楽しむ方法を伝え合い、一番楽しめる方法を決める。 □グループでの話し合い活動、全体で話し合う。	○自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることにより、一緒に楽しめるための工夫を学びあえるようにする。 ☆話し合い活動、意見交換の大切さに気付く。 ☆他者の考えを聞き、自分の考えを広げる。(ア)(イ)	知(3) 思(1) 主(2)
	総合 ⑪ ⑫	□話し合ったことをまとめ、パンフレットを作成する。 □他のグループの話し合いを聞き、参考にする。	○ワークシートを準備し、相手の立場を考えて書けるようにする。 ☆「できること」を積み上げ、「壁」に対してのそれぞれの工夫に気付く。 ☆学習を通し、いろいろな考えがあることを知る。	



7 本時について（10／12時間）

（1）本時の目標

他人事ではなく、自分事として考え、車いす利用者と楽しむ方法を考えることができる。

（2）本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 ・予想される児童の発言	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて（ア）、（イ）、（ウ） ◆評価規準
導入	<input type="checkbox"/> 前時までの学習を振り返る。（全体） <input type="checkbox"/> 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     車いす利用者といっしょに楽しもう。                 </div>	○単元の目標を確認する。
展開	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で車いす利用者にはどのような壁があるのか考えてみよう。 ・まわりがよく見えない。 →どうするとよく見えるかな？ ・階段や段差がある。 →階段や段差を避けるルートを考えられるかな？ <input type="checkbox"/> 自分たちが車いす利用者と楽しむためにはどのようなことを考えておきたいかを確認する。 ・「他人事」ではなく、「自分事」で考える。 ・「できること」を全力でやる。 <input type="checkbox"/> それぞれが考えた楽しみ方をグループ内で話し合う。 ・海水浴場に車いすでも入れるところがある。 ・電車に乗るときに、様々な工夫が駅にあることが分かった。 ・「味の素スタジアム」でスポーツ観戦を一緒にしたい。車いすの人が観戦できるシートがある。 <input type="checkbox"/> 各グループで話し合ったことで、一つの楽しみ方を選び紹介する。	○日常の生活の中で、どのような壁があるのかを想起させる。（ア）（知（3）） ○「なぜ？ どうしたらよいのか？」を繰り返し使い、児童の課題に対する工夫を促す。（ア）  ○車いす利用者がやってみたいことはどんなことなのかを2例ほど挙げる。（イ） ☆車いすラグビー体験で知った選手の思いを思い出させて、「できる」ことに目を向けることの大切さを知る。（思（1）） ○それぞれのグループの友達の考えを確認させる。 ◆話し合いの中で、他者の考えを聞き、自分の考えを広げることができる。（思（1）） 観察 ◆「他人事」でなく「自分事」として考えることができる。（主（2）） 観察
終末	<input type="checkbox"/> 本時を振り返り、話し合っただけをワークシートに書く。 ・いっしょに楽しむためには、様々な「障害」があることが分かった。 ・みんなの考えを聞いて、「楽しむ」ためにはいろいろな工夫が必要なことが分かった。 <input type="checkbox"/> 次の授業の見通しをもつ。	○振り返りのポイント ①友達の考えの良かったこと ②話し合っていることで気付いたこと ③疑問に思ったことややってみたいこと  ○パンフレットを作成する予告をする。

8 ワークシート

車いす利用者といっしょに楽しもう。

5年 2組 名前

◎ 楽しむ場所は、どこですか？

◎ どのようにして楽しみますか？

◎ 気を付けたい点、配慮したい点は？

◎ 学んだ感想を教えて。

## 研究協議会記録

### (1) 研究協議

- ① 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という実感をもてるような単元構成の工夫
  - ・車いす利用者の方のお話を通して、車いす利用者の人々の生活と現状について様々な視点から考え、児童自らが課題を見出していた。
  - ・総合的な学習の時間だけでなく、国語科の意見文の学習を踏まえて、話し合い活動やパンフレット作りを行うなど、様々な見方や考え方に触れられるようにしたことにより、児童の思考が深まっていた。
  - ・「全力で」などの児童の言葉から、考える視点を提示したことで、児童が話し合いをより深く行うことができていた。
  - ・車いすラグビーの体験を意図的に想起させることにより、児童が車いす利用者と一緒に楽しむ方法を具体的に考えることができていた。
- ② 多様な人との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有できる場面設定の工夫
  - ・「車いす利用者といっしょに楽しもう」というめあてを立て、車いす利用者と様々な施設を楽しむためのパンフレットを作るという場面を設定したことにより、これまで意識してこなかった段差や道幅の狭さなどに目を向け、これらの課題を他人事ではなく自分事として考えることができていた。
  - ・「車いす利用者」を「自分のおばあちゃん」と置き換えて、相手意識を強くもって一緒に楽しむ方法を考えることができていた。
  - ・具体的に「遊園地」「温泉」など場を絞って調べさせたことで、児童が意欲をもって一緒に楽しむ方法を考えていた。

### (2) 全体講評（ 国立特別支援教育総合研究所 上席統括研究員 久保山 茂樹 先生 ）

- ・教師自身が、これから十年後の共生社会において児童が「どんな子供であってほしいか」という視点をもって指導することが大切である。
- ・「壁を乗り越える」ではなく、「壁を作らない」社会モデルを作っていくことが必要である。
- ・児童が「自分が大人になったら、(車いす利用者にとって、暮らしやすい街をつくるため) こんなものを作りたい」という視点で考えさせるとよい。
- ・車いす利用者「声を掛ける」ということを具体的に学習の中でどう深めるかが課題。
- ・より自分事として考えさせるなら、「飛田給小学校と一緒に楽しむ」など、児童にとってより身近な場所を設定するのも一つの方法である。

## 成果と課題

	成果	課題
単元構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間だけで扱うのではなく、他教科の学習を踏まえて、横断的な学習を行うことで、自己理解・他者理解について学ぶ機会をもつことができた。</li> <li>・車いす利用者だけのことではなく、一緒にできることを考え、意見を伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断的な学習を進めるために、他教科の特性を生かした内容を指導案の中に明記する。</li> <li>・車いす利用者の視点をもっと重視していく。(社会の壁について考えることを含む。)</li> </ul>
場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすを利用されている方の話を聞くことで、社会の壁を乗り越えて生きるたくましさや願いに気づき、障害への理解を深めることができた。(有名な方やアスリートではない方から話を聞くことができた。)</li> <li>・車いすラグビー体験を通して、選手の苦労や思い、願いを聞き、自分たちと同じ環境で生きていることに目を向けて、様々な共生のための取組を考えることができた。</li> <li>・体の不自由な方や、お年寄りの方への声掛けの重要性が公共の場でよくアナウンスされていることに気付くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会の壁を乗り越える方法」ではなく、「社会が壁を作らない努力」について考えることが大切である。</li> <li>・共生社会という視点を持ち、私たちが利用できる様々な施設の使い方などを考える機会を作る。</li> <li>・体の不自由な方にどのような声の掛け方があるのかなどを、子供たちで考えさせる時間が必要である。また、その話し合いを生かして、実践につなげる。</li> </ul>
日常の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHK「u&amp;i」を視聴する中で、友達との関わり方や自分達の生きている環境などの問題を考えることができた。</li> <li>・学級活動で「相手を思う気持ち」を育むために「ありがとう」を教員も一緒にたくさん言う環境を作った。</li> <li>・「自分ファースト」ではなく、「他人ファースト」という意識がもてるよう表示や言葉掛けを多くした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いて、見て、考えたことを日常生活の中で生かすことができているかどうか検証する。</li> </ul>

# 第6学年 総合的な学習の時間指導案

令和2年10月21日(水)5校時  
調布市立飛田給小学校  
第6学年2組33名  
授業者 山坂 千尋

## 研究主題

「多様性を尊重し、互いを認め合える児童の育成」  
～オリンピック・パラリンピック教育を通じた障害者理解を軸として～

### 1 単元名「つながろう 世界と日本！日本と世界！」

### 2 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

いろいろな国から来日する人たちの思いに寄り添いながら、自国の良さや問題点を知り、文化や価値観に気づき、互いに認め合いつながり合おうとする。

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (主)
(1) 世界には、多様な文化や習慣があることや、来日するいろいろな国の人たちの思いを理解している。 (2) 目的に応じた情報収集・表現方法を理解し、活用している。	(1) 国際化に関する現状や問題を把握し、課題を見いだしている。 (2) 自分の設定した課題に向けて、情報を的確に収集している。 (3) 集めた情報を、目的を明確にし、相手意識をもって整理・分析している。 (4) 相手や目的に応じた方法で、まとめたり表現したりしている。	(1) 互いの国を尊重し、多様な価値観を認めようとしている。 (2) 来日するいろいろな国の人たちの思いに寄り添いながら、課題を解決しようとしている。

### 3 単元設定の理由

様々な面で国際化が進む現在、小学校段階においての国際理解教育の必要性や大切さは、誰もが感じているところである。実際、昨年には、本校近くの味の素スタジアムでラグビーワールドカップが開催され、大勢の人々がいろいろな国から飛田給を訪れたことを児童は目にしている。また、来年には、東京オリンピック・パラリンピックも開催される予定で、ラグビーワールドカップ以上に児童がいろいろな国の人々をより身近に感じる機会となる。さらに、児童がこの先の進路でいろいろな国の人たちと出

会う機会も、今以上に増えることが予想される。

また、社会に出れば、世界を舞台に仕事をする児童も多くいると予想される。そのようなことも踏まえ、学習指導要領では、新たな教科として外国語も導入された。本校においても、ここ5年程、総合的な学習の時間に「いろいろな国の人たちをお招きして母国を紹介していただき、児童が日本について調べたことを伝える」活動を行ってきた。

このような背景を基に、この単元では、来年に東京オリンピック・パラリンピックを地元で迎える児童が、多くの国の人や障害のある人などの日本に対する思いや願いを知ること、その国の文化や価値観、日本との違い等に気付き、今まで学習・体験したことを活かしながら自分たちにできることは何かを考えられるようにしたい。そうすることで、研究主題である「多様性を尊重し、互いを認め合える児童の育成」、そして高学年分科会の目指す児童像である「障害のある人やいろいろな人の気持ちに寄り添って、主体的に行動できる子」を育てたいと考え、本単元を設定した。

#### 4 児童の実態

本学年は、「世界ともだちプロジェクト」として、4年生のときにアラブ首長国連邦、5年生のときにウガンダ共和国、6年生のときにベリーズについて総合的な学習の時間に学習を行っている。そして、昨年度はラグビーワールドカップで、児童はラグビーに大いに魅了され、いろいろな国に興味をもった。また、外国に住んだことがある児童が本学年には3名おり、いろいろな国に学年の半数近くの児童が旅行に行っている。しかしながら、いろいろなスポーツ選手や俳優などについて、他の学年に比べるとそれら著名人が話題に上がることが少ない。そのため、外国について知っていることを尋ねると、外国語の教科書で学んだ「自由の女神がアメリカにある。」が多数を占め、国名や観光地などを答えられた児童は少ない。いろいろな国への興味関心が薄いことが分かった。学習してきたことを活かす場が充分ではなかったためと考えられる。

そのため、自分の地域の国際化に関する現状や問題から、課題を見出し、情報収集し、表現方法を考えることが、いろいろな国や人に興味をもつことにつながるのではないかと考えた。

本学年は、3年生と4年生のときに車いすバスケットボール、車いすラグビー、ブラインドサッカーの体験を行っている。さらに、パラアスリートから話を聞いて、自分と立場が違う人がいることを知り、お互いに尊重しながら自分の立場でベストを尽くすことの大切さや、心のバリアフリーについて学習をしている。実際に話を聞くことを通して、社会の中で何が問題で、児童自身が障害のある人とどのように接したらいいかについて考えることができた。昨年度は、パラリンピック競技応援校として、車いすバスケットボールの国際大会の応援に行き、選手だけでなく、サポートする人たち、応援する人たちにも車いす利用者がいることを知った。いろいろな国の人が日本を訪れるということは、その中に障害のある人たちも含まれていることを肌で感じたと思う。

本単元では、障害のある人やいろいろな人の気持ちに寄り添い、多様性を尊重したり、認め合ったりすることをとおして、主体的に行動できる児童の育成を目指したい。

## 5 研究主題に迫るための手だて

(1) 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という経験や過程を重ねていくための工夫

### ① 単元や1単位時間の構成

ア 世界の多様な文化や考え、来日するいろいろな国の人の思いを理解していく上で、導入では昨年のラグビーワールドカップが行われた時の町の様子を思い出す。また、車いすラグビーやブラインドサッカーを体験したことも思い出し、いろいろな人がどんな思いをもっていたか困っていたことがなかったか等、想像できるようにした。

イ 探究的な学習活動では、自分がイメージしていたことや考えていたことが分かるように、毎時間振り返りカードを書くようにする。

ウ 児童が主体的に取り組めるよう、調べたことや考えたこと等を共有する時間をとり、対話に重点を置いた指導をする。

エ グループや学級で共有したことを元に、児童自らが次時のめあてや学習計画も考えていけるようにする。

### ② グループینگ

調べたことを共有したり、実際の行動を考えたりするために同じような内容を探究している児童同士でグループینگする。

### ③ まとめ・発表の方法

自分たちの考えを広げ他者へ伝えるために、それぞれの考えを活かすことができるような方法でまとめる。

(2) 多様な人々との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有するための工夫

### ① 場面設定

いろいろな国の人々の生活や文化等をより詳しく知るために、ゲストティーチャーを迎え話を聞くと同時に、日本についての印象などを聞く。

### ② インタビュー

本やインターネット以外にも身近にいる他国の方に直接話を聞く等して、より広く情報を収集できるようにする。

6 単元指導計画【全18時間（○内は時間数）】

次	□主な学習活動	○教員の支援 ☆主題に迫るための手だて ((1), (2)) ◆評価規準	他教科との関連
一次 いろいろな国を知って課題を探そう	<input type="checkbox"/> どんな学習をしていくか話し合う。① ・国際社会 ・ラグビーワールドカップ ・オリンピック ・パラリンピック ・4, 5年の総合的な学習の時間での学習内容	○将来国際社会で生きていくことや、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックなどから国際理解・障害者理解への関心を高めることができるようにする。 ☆(1) ①ア, (1) ①イ ◆思(1), 主(2)	「外国語」 週2時間の学習で英語でのコミュニケーションを学ぶ。 「社会」 世界の国々について調べまとめる。
	<input type="checkbox"/> 自分が興味をもったことについて調べる。② ・日本に来て困ったこと ・日本でやってみたいこと ・○○されてうれしかったこと  <input type="checkbox"/> いろいろな国のゲストティーチャーの話聞く。②  <input type="checkbox"/> さらに興味をもったことについて調べる。②	○来日したいろいろな国の人の立場に立って、日本での生活について3観点から考え、調べられるようにする。 ☆(2) ①, (1) ①イ ◆思(2) ○よりいろいろな国のことを知るために、ゲストティーチャーの話聞く場を設ける。 ☆(2) ②, (1) ①イ ◆主(1) ○話を聞いてさらに調べる内容を絞り込んでいけるように助言する。 ☆(2) ①, (1) ①イ ◆思(2)	「道徳」 違う国の文化や考え等、理解しようとする気持ちをもつ。
二次 自分たちでできることを考えよう	<input type="checkbox"/> 活動計画を立てる。②（本時）	○一次で調べたことや、ゲストティーチャーの話聞いて分かったことから、「自分たちにもできること」を考え、実践していくための計画を立てられるようにする。 ☆(1) ②, (1) ①イ (1) ①ウ, エ ◆知(1), 思(3)	「国語」 考えや意図を図に表して、整理する。
	<input type="checkbox"/> グループで計画に沿った活動を進め、まとめる。⑥	○それぞれのグループが内容にあった方法でまとめ、発表できるよう場と必要な物を準備しておく。 ○既習の表現方法から効果的な方法を選択できるように、それぞれの特徴を説明する。 ○まとめに向けて作成しているものをゲストティーチャーに見せ、助言してもらう。 ☆(1) ③, (1) ①イ ◆知(2)	「国語」 考えや意図を図に表して、整理する。
三次 互いに発表し考えよう	<input type="checkbox"/> まとめたことを発表する。②	○活動全体をとおしてつかんだことや考えたことを伝えることができるようにする。 ☆(1) ③, (1) ①イ ◆思(4)	「国語」 それぞれの立場の課題や意見を持ち寄って、適した方法で知らせる。
	<input type="checkbox"/> 単元の活動を通して、学んだことや自分の気持ちが変わったことなどを振り返る。①	○活動をして、これからの自分の生き方を考えるよう助言する。 ☆(1) ①イ ◆思(1)	



7 本時について（8・9 / 18時間）

(1) 本時の目標

- ①世界には多様な文化や習慣があることや、来日するいろいろな国の人たちの思いを理解している。
- ②集めた情報を、目的を明確にし、相手意識をもって整理・分析している。

(2) 本時の構成

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 ・予想される児童の発言	<input type="checkbox"/> 教師の支援 ☆主題に迫るための手だて ((1), (2)) ◆評価規準
導入	<input type="checkbox"/> めあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     調べたことを伝え合い、できることを考えよう。                 </div>	<input type="checkbox"/> 前時の振り返りから、本時のめあてを確認する。
展開①	<input type="checkbox"/> 調べたことをグループで共有し、できることを考える。  C:電車の乗り方が分からなくて困る人がいる。 C:災害が不安。 C:駅から競技会場までの道が分からない。 C:段差や階段があると大変。 C:日本食を食べたい。 C:日本の伝統文化を知りたい。	<input type="checkbox"/> 調べたことをもとに、自分たちにできることを考える際、複数考えてもよいことを伝える。 ☆(1)②調べたことを共有したり、実際の行動を考えたりすることができるよう同じような内容を探究している児童同士でグルーピングする。 ☆(1)①ウ 児童が主体的に取り組めるよう、調べたことや考えたこと等を共有する時間をとり、対話を大切にできるようにする。 ◆思(3)
展開②	<input type="checkbox"/> グループ内で出た意見を全体で共有する。  C:電車の乗り方が分からなくて不安という人のために、乗り方を英語やイラストで表現したものを作りたいという意見が出ました。 C:災害が不安という人のために、避難の仕方や避難所マップ、英語やイラストで表現したものを作りたいという意見が出ました。 C:駅から競技会場までの道が分からない人のために、多言語表記の看板を作りたいという意見が出ました。 C:段差や階段があると大変だと感じる人のために、エレベーターの場所やスロープがある道が分かるマップを作りたいという意見が出ました。 C:日本食を食べたいという人のために、おすすめのお店を紹介するパンフレットを作りたいという意見が出ました。 C:日本の伝統文化を知りたいという人のために、伝統文化を紹介できるようになりたいという意見が出ました。	↑2時間扱いにする。  <input type="checkbox"/> 調べた結果と、それに対する考えを発表するよう説明する。 ◆知(1) ☆(1)①エ 共有したことを元に、児童自らが次時のめあてや学習計画も考えていけるようにする。
終末	<input type="checkbox"/> 次時の見通しをもち、本時の振り返りを行う。 C:グループでは、不安についての意見しかでませんでしたが、他のグループは違う気持ちに対して考えていて、すごいと思いました。 C:同じような悩みでも、それに対してできることが違っておもしろかったです。	<input type="checkbox"/> 他グループの意見を聞き、自分とは違う考えを取り入れたり、自分の考えを深めたりすることができている児童の振り返りを見取り、発表するよう促す。  ☆(1)①イ 探究活動では、自分がイメージしていたことや考えていたことが分かるように、毎時間振り返りカードを書くようにする。

8 研究主題に関わる目指す児童の姿（本単元において）

- 来日したいろいろな国の人の立場に立って，その人たちの日本での生活について考えている。
- 日本や他の国の良さについて知り，どの国にもそれぞれ良い所があることに気付いている。
- 「自分たちにできること」を考えていく中で，まとめたことがより多くの人のためになっているのかを見返し，いろいろな国の人の気持ちに寄り添って活動を進めている。
- 小さなことでも，自分にできることを見つけてすすんで行動しようとしている。
- いろいろな国の人のために，自分ができることを見付け，行動することができる。



## 研究協議会記録

### (1) 研究協議

- ① 自分の見方・考え方に目を向け、「変わった・広がった・深まった」という経験を重ねていくための工夫
- ・「自分にできること」の定義が人によって違ったため、今できることか、将来に向けてか、自分ではない誰かに頼むことなのかなど、目的をはっきりさせた方がよかった。
  - ・グループごとの話し合いは、それぞれの考え方の視点の違いや理解の深まりにつながるため、教師の発問の工夫、めあてを明確にして児童の話し合いを焦点化した方がよかった。発表したことによって、聞いてもらえた、発表してよかった、同じ思いをもってもらえたと感じられるように全体場で共有したい。
  - ・振り返りカードを毎時間書くことで、自分の考えに対する振り返りができていた。自分が立てた課題とやりたいことがずれることなく、自分自身の思考や考えをより深めることができた。
  - ・本時の学習における「多様性の尊重」に対する評価については、児童のつぶやき、観察カード、振り返りカードで行う。また、単元当初の振り返り（感想）と単元学習後の比較を行うことで、変容を読み取っていく。
- ② 多様な人々との関わりの中で、相手を知り、活動や感情を共有するための工夫
- ・ゲストティーチャーとの交流により、具体的に相手をイメージして考えることができた。
  - ・去年までの障害者教育の積み重ねが、学びのつながりとなり、今回の課題を考える土台になっていた。

### (2) 全体講評

(国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部統括研究員 杉浦 徹 先生 )

- ・インクルーシブ教育として必要なことを考える。
- ・自分とは違う他者への思い、他者に対する（知らないこと）想像力を6年間で培っていくことが他者理解になる。低学年は、自分と他者。中学年は、社会とのつながり。高学年は世界とのつながりと発達段階に応じてテーマを変え、理解を高めていく。

(国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部主任研究員 伊藤 由美 先生 )

- ・他者に対する「なぜ」から、自分だったらどうなるかの自己視点・自己理解に落とし込むことが大切。そこから他者視点・他者理解に広がっていく。
- ・「自分がしてあげたいこと」ではなく、「一緒にやる」という発想があったことがよかった。
- ・他者とは特定の誰かではなく、障害のある人、高齢者だけでなく、幼児なども入ってくる。「共通してあったら役に立つ」ということが多様性からの考え方になる。

(国立特別支援教育総合研究所 研修事業部総括研究員 宇野 宏之祐 先生 )

- ・特別支援教育とは一人一人に応じた指導である。
- ・思考が掘り下げられていくのは、対立する意見によって価値観の違いに出会った時の違和感から始まる。友達の意見を聞いて自分の考えも深まり、自己理解に向かう。他教科で学習したことを関連付けながら、意見の違いが生まれる場面を設定する。

## 成果と課題

	成果	課題
単元構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科の特性を生かした内容を指導案の中に明記することで、横断的な学習をすすめることができた。</li> <li>振り返りカードを毎時間書くことで、自分自身の思考を深めることができた。</li> <li>相手の視点を持ち、「一緒に行く」「共に楽しむ」という考えを自然にもつことができる児童が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他教科で学習したことを関連付けて、児童の思考を掘り下げ、自分たちの考えを深め合う場面を設定する。</li> <li>単元の当初と最後の児童の思考を比較することで、多様性の尊重に対する変容を読み取る。</li> </ul>
場面設定の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲストティーチャーを数回にわたって招いたことで、他国への興味・関心にとどまらず、より広い視点で物事を捉えようとするようになるようになった。</li> <li>自分の身近な外国の人（習い事の先生、レストランの店員）に自らアプローチしたいと考えて実行することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習においてタブレットを使用するときに、情報が正しいかどうか常に判断をすることができるようにする。</li> <li>相手意識を常に明確にすることができるようにする。自分のやりたいこと、調べたいことに走らないようにする。</li> <li>日常的に自分の身近な人や、言葉以外でのコミュニケーションのやりとりなどについて自分から実行できることを考えられるようにする。</li> </ul>
日常の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達のよいところを毎日発表する時間をもつことで、互いに認め合う雰囲気が育ってきた。</li> <li>道徳やぐるえんタイム等を通して、友達の個性や特性を認めようとし、自分と他者の違いを受け入れることができ始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者のよいところを見付けられるようになった反面、自己肯定感が低い。友達を助けたり、感謝されたり、褒められたりする経験を通して、自己有用感をもてるようになる。</li> </ul>



## 第2部 ぐるえんタイム（朝の会）資料








ぐるえんタイム（朝の会）活動計画

日付	題材名	ねらい	内容	参照	指導案・資料編 該当ページ
6/5	参考図書使用 自己紹介ゲーム	友達の名前や好きなものを知ることで、親近感をもつことができる。	グループを作り、テーマに対して1人ずつ発表し、2人目以降は前の人の発表も付け加えていく。	「構成的グループエンカウンターミニエクササイズ56選」(明治図書) p13,14	
6/19	図書「友達関係(不安ダヨ星人・イライラ星人)」	不安や怒りの気持ちの特徴やそれらの気持ちの対処方法を知る。	スライドショーから、不安な気持ちや怒りの気持ちの特徴を確認し、対処方法を学ぶ。	「学校では教えてくれない大切なこと友達関係～自分と仲良く～」(旺文社)	
7/3	参考図書使用 質問じゃんけん	相手に伝えることの楽しさや自分を受け入れてもらう心地よさを実感する。	近くの人とじゃんけんをして勝った人が負けた人に一つ質問をする。	「小学校人間関係づくり～エクササイズ&ワークシート～」(学事出版) p40-45	
7/17	ロールプレイ ぐるえん劇場①	相手の気持ちを考える。	遊びに誘われたときに何気なく「むり」と言って断る場面劇を見て、言われた相手の気持ちを考え、日々の自分の行いに照らして振り返る。		p58 Aくんのきもち は？
8/4	参考図書使用 うれしかった「ありがとう！」	友達がしてくれたことで嬉しかったことを「ありがとう！」カードに書き、相手にプレゼントすることで、感謝の気持ちを表す。	友達にしてもらって嬉しかったことをカードに書き相手に渡す。	「構成的グループエンカウンターミニエクササイズ56選」(明治図書) p128,129	
8/28	ミニエクササイズ ①	自分と同じ好みや違う好みをもつ友達を知り、互いの理解を深める。	4つのお題に対して自分に最も当てはまるものを選び、選んだ理由を添えてグループの友達と意見を交流する。	「小学校人間関係づくり～エクササイズ&ワークシート～」(学事出版) p112-116	p59 4つの窓
9/4	図書「友達関係(自分大好き大作戦)」	自分自身の肯定的な受け取り方を知る。	スライドショーを見て、失敗したり、自分がだめだと思ったらときの受け取り方を学ぶ。	「学校では教えてくれない大切なこと友達関係～自分と仲良く～」(旺文社)	
9/11	ロールプレイ ぐるえん劇場②	相手の様子によって話をやめたり、話す内容を考えたりできるようにする。	相手の反応を気にせずに自分の好きなものを見せ続けようとする場面劇から、相手の気持ちを考え、日々の自分の行いと照らして振り返る。		p60 相手の様子に気付 けるかな？
10/2	ミニエクササイズ ②	自分を肯定するきっかけにする。	2つの選択肢からどちらかを選び、選んだ理由を添えてグループやクラス全体で意見を交流する。	「構成的グループエンカウンターミニエクササイズ56選」(明治図書) p56,57	p61 ご注文はどっち？
10/9	ロールプレイ ぐるえん劇場③	友達に注意されたときは、一度自分の言動を振り返ることができるようにする。	注意されたときに自分の行動を顧みず、注意した相手に言い返す場面劇から、相手の気持ちを考え、日々の自分の行いと照らして振り返る。		p62 注意されたとき
11/6	ミニエクササイズ ③	他者と仲良くなかわり活動できるようにする。	お手玉を頭上に乗せて自由に動き回り、お手玉が落ちたら、近くの人に拾って頭上に乗せてもらう。		p63 電池人間
11/20	テレビ視聴 u&i①	多様性を尊重し"みんな"で助け合える心情を育てる。	NHK for School 「u&i」のサイトからクラスの実態に合わせて動画を選び視聴する。	NHK for School 「u&i」	
12/11	ミニエクササイズ④	テーマに対して自分の考えと友達の考えを比べ、友達の感じ方、考え方を聞き合う。	お題に対して自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。発表を聞いて、どのような意見でも「いいね」とコールする。		p64 いいねコール
12/18	テレビ視聴 u&i②	多様性を尊重し"みんな"で助け合える心情を育てる。	NHK for School 「u&i」のサイトからクラスの実態に合わせて動画を選び視聴する。	NHK for School 「u&i」	
1/15	参考図書使用 WANTED=この人を探せ	あまり話をしたことがない友達のことを知り、お互いの親近感を深める。	お題に合う人の名前を書き、クラス全員で答え合わせをして、お題に当てはまる人を知る。	「構成的グループエンカウンターミニエクササイズ56選」(明治図書) p94,95	
1/29	テレビ視聴 u&i③	多様性を尊重し"みんな"で助け合える心情を育てる。	NHK for School 「u&i」のサイトからクラスの実態に合わせて動画を選び視聴する。	NHK for School 「u&i」	
2/12	参考図書使用 でーきたできた	グループやクラスのできるようになったことを認め合い、互いの頑張りがよさを確かめる。	グループやクラス全体のできるようになったことを発表し、共有する。	「構成的グループエンカウンターミニエクササイズ56選」(明治図書) p108,109	
2/26	読み聞かせ	多様性を尊重し"みんな"で助け合える心情を育てる。	図書は図書室の多様性のコーナーか友達関係の図書等から担任がクラスの実態に合わせて内容を選ぶ。	「学校では教えてくれない大切なこと友達関係～自分と仲良く～」(旺文社)	
3/12	参考図書使用 いいとこ探し	互いのよさを認め合う。	友達のいいところだと思う事実と感想をカードに書き、相手に渡す。	「構成的グループエンカウンターミニエクササイズ50選」(明治図書) p28,29	

## ぐるえん劇場① 「A さんのきもちは・・・？」

ねらい：遊びに誘われたときに何気なく「むり」と言っている児童が多くみられる。「むり」と言われた相手の気持ちを考える。

時間	主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項
3分	<p>○場面設定の説明を聞く。</p> <p>○休み時間に A さんが B さんを遊びに誘う場面劇を見る。</p>	<p>○登場人物を確認し、休み時間であることを伝える。</p> <p>○A さんの表情に注目することを伝える。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ぐるえん劇場      A さんのきもちは・・・？      ※キャストは研推</p> <p>中休みになりました…</p> <p>A 「B さん、一緒に遊ぼう！」            B さん</p> <p>B 「むり。」(そっけなく)      A さん            B さん      →            A さん</p> <p>A 「なんで一…。」(悲しい表情でしょんぼりする)</p> </div>		
3分 気付く	<p>○A さんは遊べたのかどうか振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A さんが悲しい表情でしょんぼりしている。</li> <li>・B さんが「むり」と言って断った。</li> </ul>	<p>○会話を視覚的に示して、劇の内容を確認する。</p> <p>○必要であれば再度動画を再生する。</p> <p>○A さんは B さんと遊びたかったが、断られたことを確認する。</p>
6分 考える	<p>○B さんに「むり」と言われた A さんの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悲しい。</li> <li>・断り方がイヤだから、いやな気持ち。</li> <li>・「何、怒ってるの？」と思う。</li> <li>・A さんとは遊びたくない。</li> <li>・イラっとする。</li> </ul>	<p>○B さんに「むり」と言われて A さんが悲しい気持ちになっていることに気付くように表情を描き込む。</p> <p>○B さんの言い方や態度によって、イライラした気持ちにつながったり、A さんは B さんと今後遊びたくなくなってしまうことに気付くようにする。</p>
2分 話し合い	<p>○A さんはどんな言い方をすればよかったかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごめんね。</li> <li>・ごめんね。今日は遊べないんだ。</li> <li>・ほかの人と遊ぶ約束をしているから。</li> </ul> <p>※時間があれば配役を決めてロールプレイを行う。</p>	<p>○具体的にどのような言い方をするとよいか B さんの立場になって考える。</p> <p>○「他の人と遊ぶから」の理由の時は、一緒に遊べばよいことを伝える。</p>
1分 振り返り	<p>○まとめ</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手の気持ちを考えよう</span></p>	<p>○振り返りシートに記入させる。</p> <p>○傷つけようと思っていなくても「むり」と言ってしまっていないか、自分たちのことを振り返られるようにする。</p>

## ミニエクササイズ①

### 「4つの窓（短縮バージョン）」

〈ねらい〉

4つの中から、自分がいいと思うものを選び、友達と、選んだものと選んだ理由を伝え合う活動を通して自分と同じ好みや違う好みをもつ友達の存在を知り、互いの理解を深める。

〈活動の流れ〉

- ① めあてを確認する。

**めあて**

- ・友達の好きなことを知ろう。
- ・お互いの好きなことをしっかり伝え、しっかり聞こう。

- ② 今日の活動の説明を聞く。(2分)

T:4つの中から自分が一番いいと思うものに○を付けてください。

T:選んだものと選んだ理由を、グループで、順に聞き合ひましょう。

**やりかた**

みんな : どれを選びましたか？

選んだ人 : ○○を選びました。

みんな : どうしてですか？

選んだ人 : □□だからです。

質問はありますか？

- ③ 活動をする。(10分)

T:それでは、始めましょう。早く終わったグループは、テーマについて、質問したいことなどがあったら自由に話して待っていてください。

- ④ ふりかえりをする。(3分)

- ・ふりかえりシートの記入。
- ・感想を発表する。

## ぐるえん劇場②

## 「相手の様子に気付けるかな？」

ねらい：自分が好きな話でも、相手にとっては苦手な話だったり、興味がなかったりすることがある。その時の相手の様子によって話をやめたり、話す内容を考えたりできるようにする。

時間	主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項
4分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面設定の説明を聞く。</li> <li>○相手の様子に気付かずに話し続ける A くん の場面劇を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物を確認し、休み時間の場面であることを伝える。</li> <li>○登場人物の言動に注目することを伝える。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぐるえん劇場 「相手の様子に気付けるかな？」</p> <p>ナレーション：A くんは中休みに校庭であるものを見つけとても喜んでいきます。近くに B くんがいることに気付きました。</p> <p>A 「すごいきれいなもの見つけたんだ。すごいきれいなもの！！見て見て。」</p> <p>B 「うん！！」</p> <p>A 「これ！」（得意気に見せる）</p> <p>B 「えっ…。（苦手なためびっくりして、後ずさりする）」</p> <p>A 「きれいでしょ！」</p> <p>B 「う…ん。」（あいまいな返事）</p> <p>A 「でしょー！！やっとならぬ捕まえたんだ。大変だったんだよ！触ってみて！」（B くんの様子に気付かないまま一方的に話し続けている。）</p> </div>	
2分 気付く	<ul style="list-style-type: none"> <li>○A くんの様子を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなものを見せたくてウキウキしている。</li> <li>・B くんはトカゲが嫌いなことに気付いていない。</li> <li>・手の中のものを B くんに見せたり、触らせたりしようとしていた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話を視覚的に示して、劇の内容を確認する。</li> <li>○必要であれば再度動画を再生する。</li> <li>○B くんの様子に気付いていない A くん の言動を考える</li> </ul>
1分 考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B くんがトカゲを嫌いだと思うのはなぜ？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやそうな顔をしていた。</li> <li>・びっくりしていた。</li> <li>・後ずさりしていた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B くんが嫌がっている様子に気付けるようにする。</li> </ul>
2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B くん の気持ちを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやだ</li> <li>・困った。</li> <li>・これ以上その話を聞きたくない。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B くん の立場になって考える。</li> </ul>
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○A くんは どうすればよかったかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・B くんの様子を見て話すのをやめる。</li> <li>・「ごめんね」と謝る。</li> </ul> </li> <li>※時間があれば生活場面に置き換えて自分の話していることが相手には興味がなかったり、いやがられたりしていることがないか話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分がよく見る TV 番組, Youtube, ゲーム, アイドルなどについて話しているときの相手の様子を思い浮かべられるようにする。</li> </ul>
1分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめ</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分が好きで楽しいことでも、相手が嫌がっていることもあるため、相手の様子に気付くことが大事である。</p> </div>	

## ミニエクササイズ②

「ご注文はどっち？」

〈ねらい〉

2つのものをどちらか選択するとしたら、自分はどれにするか、またその理由は何かをはっきりさせることで、自分を肯定するきっかけにする。

〈やり方〉

- ① 2つのうち1つ選択するとしたらどちらにするか、ワークシートに○をして、理由を書く。  
※学級の実態に応じて、項目を選ぶ。
- ② グループになり、1つずつ順番に発表する。選べないときはパスをしてもよい。
- ③ 振り返りをする。

◇あなたがどちらかを選ぶ必要があるとき、あなたはどちらを選びますか？

えら 選ぶもの（○で囲もう）		なぜ？その理由は？ りゆう
①	やきにく すし 焼肉と寿司	
②	パンとごはん	
③	なつ ふゆ 夏と冬	
④	そとあそび しつないあそび 外遊びと室内遊び	
⑤	かこ みらい 過去と未来	
⑥	テレビと Youtube	
⑦	いぬとねこ	

## ぐるえん劇場③

## 「注意されたとき」

ねらい：注意されたときに自分の行動を顧みず、注意した相手に言い返す場面がしばしばみられる。注意されたときは、一度自分の言動を振り返ることができるようにする。

時間	主な学習活動・内容	指導上の留意点・配慮事項
4分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○場面設定の説明を聞く。</li> <li>○授業の片付けをゆっくりしていて、みんなを待たせているにも関わらず、注意されると言い返すAさんの場面劇を見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登場人物を確認をする。授業が終わり、片付けて次の授業準備をしてから、教室の移動のために列に並ぶ場面であることを伝える。</li> <li>○Aさんの言動に注目することを伝える。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぐるえん劇場③ 「注意されたとき」</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>ナレーション：前の時間の片付けがなかなか終わらないAさん。鉛筆を削ることに気が向いてしまいました。みんなはもう教室移動で並んで待っています。</p> <p>B「Aさん、早くして。みんなが待ってるよ。(優しく注意する)」</p> <p>A「えー！早くしてるよ！今、片付けてるの！。(言い返す)」</p> </div>		
4分 気付く	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Aさんの様子を振り返る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けるのが遅い。</li> <li>・Bさんに「早くして。」と言われたら、言い返していた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話を視覚的に示して、劇の内容を確認する。</li> <li>○必要であれば再度動画を再生する。</li> <li>○Bさんの注意の仕方には問題はなかったことを押さえる。</li> <li>○Aさんは自分のペースで動いていること、周りの人を困らせていることを押さえる。</li> </ul>
3分 考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Aさんに言い返されたBさんや周りの人の気持ちを考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・早く片付けて欲しい。</li> <li>・みんなを待たせていることに気付いて欲しい。</li> <li>・怒らなくてもいいと思う。</li> <li>・優しく注意しただけなのになんで？</li> <li>・言い返されて悲しい気持ち。</li> </ul> </li> </ul>	
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Aさんは注意された時にどうすればよかったかを考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・急いで片付けをする。</li> <li>・周りの人が並んで待っていることに気付く。</li> <li>・「ごめんね。」と謝る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Bさんや周りの人の立場になって考える。</li> <li>○注意されて、イラっとしたり言い返したりしたことがないかを話し合う。どうして言われたのかを振り返る。</li> </ul>
1分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめ</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>注意された時は、なぜかを考えて素直に聞こう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りカードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○注意されたときは自分の行動を振り返られるようにする。</li> </ul>

## ミニエクササイズ③

### 「電池人間」

〈ねらい〉

仲間に助けを求めたり，仲間を助けたりする活動を通して，他者と仲良く関わり，活動できるきっかけとする。

〈活動の流れ〉

① めあてを確認する。

**めあて**

- ・声や身振りで友達に助けを求めよう。
- ・友達を助けよう。

② 今日の活動の説明を聞く。(5分)

**やり方**

- ・全員が頭の上にお手玉（電池に例える）を乗せ，教室を自由に歩きます。
- ・お手玉（電池）が落ちると，動けなくなります。
- ・誰かに助けを求め，電池を頭の上に乗せてもらおうと復活できます。

T:一人に一つずつお手玉を配ります。

③ 活動をする。(5分)

T:それでは，立ちましょう。

スタート！

※全員で何秒生き残ってられるかを計ると，意欲が増します。

※障害物のあるコースを作って，みんなで回っても盛り上がります。

④ ふりかえりをする。(3分)

- ・ふりかえりシートの記入。
- ・感想を発表する。

## ミニエクササイズ④

### 連想イメージゲーム「いいねコール」

〈ねらい〉

- ・お題に対して、自分の考えと友達の考えを比べて聞き合う活動を通して、人の感じ方、考え方はそれぞれであることを実感する。

〈活動の流れ〉

① めあてを確認する。

**めあて**

- ・お題に対して思い浮かぶ言葉を連想する。
- ・友達の言葉を予想する。

② 今日の活動の説明を聞く。(3分)

**やり方**

- ・お題に対して浮かんだ言葉を紙に書く。
  - ・4～5人のグループになる。
  - ・ゲーム1「ピッタリゲーム」(みんなで同じものになるように予想して書いて、一斉に紙を出す。)
  - ・ゲーム2「ばらばらゲーム」(みんなで違うものになるように予想して書いて、一人ずつ紙を出す。)
- ※ゲーム2では、どんな言葉でも「いいね」と周りのメンバーがコールする。

③ 活動をする。(10分)

(お題の例)

- ・動物園にいる動物で、ひらがなにすると3文字の動物といえは？
- ・教室の中にある4文字のものといえは？
- ・みんなが好きな給食のメニューといえは？

④ ふりかえりをする。(2分)

- ・ふりかえりシートの記入。
- ・感想を発表する。



振り返りカード（低学年用）

ぐるえんタイム きろくようし 年 組		
月 日	やったこと	きづいたこと, かんそう (◎ ○ △)
	「じこしょうかい ゲーム」	たのしくとりくめた ( )
	としょ「ともだちかんけい (ふあんダヨせいじん) (イライラせいじん)」	やってみようとおもった ( )
	「しつもん じゃんけん」	たのしくとりくめた ( )
	ぐるえんげきじょう① (ことわりかた)	やってみようとおもった ( )
	「うれしかった 『ありがとう!』」	
	「4つのまど」	じぶんのすきなことをつたえられた ( ) ともだちのすきなことがわかった ( )
	U&I「 」	
	ぐるえんげきじょう② (ききいれかた)	
	「ごちゅうもんは どっち?」	
	ぐるえんげきじょう③ (ちゅういされたとき)	
	「でんちにんげん」	
	U&I「 」	
	「いいねコール」	
	U&I「 」	
	「WANTED=このひ とをさがせ」	
	U&I「 」	
	「でーきたできた」	
	としょよみきかせ	
	「いいとこさがし」	

(中・高学年用)

ぐるえんタイム 記録用紙 年 組		
月 日	活動内容	気付いたこと, 感想, ◎ ○ △
	じこしょうかい 「自己紹介ゲーム」	楽しく取り組めた ( )
	図書「友達関係 (不安ダヨ星 人) (イライラ星人)」	やってみようと思った ( )
	「質問じゃんけん」	
	ぐるえん劇場① (断り方)	
	「うれしかった 『ありがとう!』」	
	まど 「4つの窓」	
	U&I「 」	
	げきじょう ぐるえん劇場②	
	「ご注文はどっち?」	
	ぐるえん劇場③ (注意されたとき)	
	「電池人間」	
	U&I「 」	
	「いいねコール」	
	U&I「 」	
	「WANTED=この人 を探せ」	
	U&I「 」	
	「でーきたできた」	
	図書読み聞かせ	
	「いいとこ探し」	